

学校給食センター

総合メンテナンス保守管理事業仕様書

葛城市教育部 学校教育課

学校給食センター

建物概要

施設名称	葛城市学校給食センター
所在地	奈良県葛城市寺口1666番地1
構造	鉄骨造一部2階建
	1階 1,702.78㎡
	2階 592.55㎡
建築面積	1,885.68㎡
延床面積	2,295.33㎡
業務日・時間	土・日・祝日及び年末年始（12月29日から1月3日）を除く、 午前7時30分から午後5時15分

葛城市学校給食センター総合メンテナンス保守管理事業委託仕様書

目 次

第1編 共通仕様書	5
第2編 定期点検等・保守	10
第1章 一般事項	
第2章 機械設備	12
1. 一般事項	
2. 貫流式ボイラー	13
3. 空冷電気式ヒートポンプエアコン	16
4. 吸収式冷温水機	18
5. 空冷ガスヒートポンプエアコン	19
6. ガス・コージェネレーション	21
7. 開放式冷却塔	23
8. 開放式冷却塔水处理装置	23
9. 貯湯槽タンク	24
10. ユニット形空気調和機	25
11. 給排気 設備	26
12. ポンプ	28
第3章 監視制御設備	30
1. 一般事項	
2. 中央監視制御装置	
第3編 日常点検・保守	34
第1章 一般事項	
第2章 電気設備	36
1. 一般事項	
2. 電灯・動力設備	
3. 内部用自動ドア	

第3章 機械設備	36
1. パッケージ形空気調和機	36
2. ポンプ	37
3. 送風機	37
4. 全熱交換器	38
5. 給排水衛生設備	39
6. 吸収式冷温水機	40
7. 貫流式ボイラー	41
第4編 建築物環境衛生業務	43
第1章 給水及び排水の管理	
第2章 空気調和機他フィルタ清掃による衛生管理	48

第1編 共通仕様書

1. 適用

- (1) 本共通仕様書（以下「共通仕様書」という。）は、建築物及びその附帯施設（以下「建築物等」という。）の定期点検、臨時点検、日常点検、保守、運転・監視、清掃、執務環境測定及び警備に関する業務に適用する。
- (2) 共通仕様書に規定する事項は、別の定めがある場合を除き、受注者の責任において履行すべきものとする。
- (3) 建築保全業務に係る契約書は以下によるものとし、相互に補完するものとする。ただし、契約図書間に相違がある場合の優先順位は、次の(ア)から(ウ)の順番とし、これにより難しい場合は、4.「疑義に対する協議等」による。
 - (ア) 契約書（頭書及び条項をいう）
 - (イ) 特記仕様書（図面、機器リストを含む）
 - (ウ) 共通仕様書
- (4) 本編の規定は、別に定めのある場合には適用しない。

2. 用語の定義

共通仕様書において用いる用語の定義は、次による。

- (1) 「施設管理担当者」とは、契約書に規定する監督員（以下「施設管理担当者」という。）をいい、建築物等の管理に携わる者で、保全業務の監督を行うことを発注者が指定した者をいう。
- (2) 「受注者等」とは、当該業務契約の受注者又は契約書の規定により定めた受注者側の業務責任者をいう。
- (3) 「業務責任者」とは、契約書に規定する業務担当責任者（以下「業務責任者」という。）をいい、業務を総合的に把握し、業務を円滑に実施するために施設管理担当者との連絡調整を行う者で、現場における受注者側の責任者をいう。
- (4) 「業務担当者」とは、業務責任者の指揮により業務を実施するもので、現場における受注者側の担当者をいう。
- (5) 「業務関係者」とは、業務責任者及び業務担当者を総称していう。
- (6) 「施設管理担当者の承諾」とは、受注者等が施設管理担当者に対し書面で申し出た事項について、施設管理担当者が書面をもって了解することをいう。
- (7) 「施設管理担当者の指示」とは、施設管理担当者が受注者等に対し業務の実施上必要な事項を、書面によって示すことをいう。
- (8) 「施設管理担当者と協議」とは、協議事項について、施設管理担当者と受注者等とが結論を得るために合議し、その結果を書面に残すことをいう。
- (9) 「施設管理担当者の検査」とは、業務の各段階で、受注者等が実施した結果等について提出した資料に基づき、施設管理担当者が契約図書との適否を確認することをいう。
- (10) 「施設管理担当者の立会い」とは、業務の実施上必要な指示、承諾、協議及び検査を行うため、施設管理担当者がその場に臨むことをいう。
- (11) 「特記」とは、1.「適用」の(3)の(ア)及び(イ)に指定された事項をいう。
- (12) 「業務検査」とは、契約書に規定するすべての業務の完了の確認又は、毎月の支払の請求に関わる業務の終了の確認をするために、発注者が指定した者が行う検査をいう。
- (13) 「作業」とは、共通仕様書で定める建築物等の定期点検、臨時点検、日常点検、保守、運転・監視、清掃、執務環境測定及び警備に当たることをいう。
- (14) 「必要に応じて」とは、これに続く事項について、受注者等が作業の実施を判断すべき場合においては、あらかじめ施設管理担当者の承諾を受けて対処すべきことをいう。
- (15) 「原則として」とは、これに続く事項について、受注者等が遵守すべきことをいう。ただし、あらかじめ施設管理担当者の承諾を受けた場合は他の手段によることができる。
- (16) 「点検」とは、建築物等の部分について、損傷、変形、腐食、異臭その他の異常の有無を調査

することをいい、保守又はその他の措置が必要か否かの判断を行うことをいう。

- (17) 「定期点検」とは、当該点検を実施するために必要な資格又は特別な専門的知識を有する者が定期的に行う点検をいい、性能点検、月例点検、シーズンイン点検、シーズンオン点検及びシーズンオフ点検を含めていう。
- (18) 「臨時点検」とは、当該点検を実施するために必要な資格又は特別な専門的知識を有する者が、台風、暴風雨、地震等の災害発生直後及び不具合発生時等に臨時に行う点検をいう。
- (19) 「日常点検」とは、目視、聴音、触接等の簡易な方法により、巡回しながら日常的に行う点検をいう。
- (20) 「保守」とは、点検の結果に基づき建築物等の機能の回復又は危険の防止のために行う消耗部品の取替え、注油、塗装その他これらに類する軽微な作業をいう。
- (21) 「運転・監視」とは、施設運営条件に基づき、建築設備を稼働させ、その状況を監視し、制御することをいう。
- (22) 「清掃」とは、汚れを除去すること及び汚れを予防することにより仕上げ材を保護し、快適な環境を保つための作業をいう。

3. 受注者の負担の範囲

- (1) 業務の実施に必要な施設の電気、ガス、水道等の使用に係る費用は、特記がある場合に限り受注者の負担とする。
- (2) 点検に必要な工具、計測機器等の機材は、設備機器に付属して設置されているものを除き、受注者の負担とする。
- (3) 保守に必要な消耗部品、材料、油脂等は、受注者の負担とする。
- (4) 清掃に必要な資機材は、受注者の負担とする。

4. 疑義に対する協議等

- (1) 契約図書に定められた内容に疑義が生じた場合は、施設管理担当者と協議する。
- (2) (1)の協議を行った結果、契約図書の訂正又は変更を行う場合は、受注者及び発注者の協議による。
- (3) (1)の協議を行った結果、契約図書の訂正又は変更に至らない事項は、10.「業務の記録」(1)の規定による。

5. 報告書の書式等

報告書の書式は、別に定めがある場合を除き、施設管理担当者の指示による。

6. 関係法令等の遵守

業務の実施に当たり、適用を受ける関係法令等を遵守し、業務の円滑な遂行を図る。

7. 業務計画書

- (1) 業務責任者は、各業務目的に照らし適切な業務の実施に先立ち、実施体制、全体工程、業務担当者が有する資格等、必要な事項を総合的にまとめた業務計画書を作成し、施設管理担当者の承諾を受ける。ただし、軽微な業務の場合において施設管理担当者の承諾を得た場合はこの限りではない。
- (2) 業務関係者が施設に常駐して行う業務においては、受注者は業務関係者の労務管理について適切に行うよう計画する。

8. 作業計画書

業務責任者は、業務計画書に基づき作業別に、実施日時、作業内容、作業手順、作業範囲、業務責任者名、業務担当者名、安全管理等を具体的に定めた作業計画書を作成して、作業開始前に施設管理担当者の承諾を受ける。

9. 貸与資料

貸与資料は、特記による。なお、点検対象の設備機器等に備え付けの図面、取扱説明書等は使用することができる。ただし、作業終了後は、原状に復するものとする。

10. 業務の記録

- (1) 施設管理担当者と協議した結果について記録を整備する。
- (2) 業務の全般的な経過を記載した書面を作成する。ただし、同一業務内容を連続して行う場合は、施設管理担当者と協議の上、省略することができる。
- (3) 一業務が終了した場合には、その内容を記載した書面を作成する。
- (4) (1) から (3) の記録について、施設管理担当者より請求された場合は、提出又は提示する。

11. 業務管理

契約図書に適合する業務を完了させるために、業務管理体制を確立し、品質、工程、安全等の業務管理を行う。

12. 業務責任者

- (1) 受注者は、業務責任者を定め施設管理担当者に届け出る。また、業務責任者を変更した場合も同様とする。
- (2) 業務責任者は、業務担当者に業務目的、作業内容及び施設管理担当者の指示事項等を伝え、その周知徹底を図る。
- (3) 業務責任者は、業務担当者以上の経験、知識及び技能を有する者とする。なお、業務責任者は業務担当者を兼ねることができる。

13. 業務条件

- (1) 業務を行う日及び時間は、特記による。
- (2) 契約図書に定められた業務時間を変更する必要がある場合には、あらかじめ施設管理担当者の承諾を受ける。

14. 業務の安全衛生管理

- (1) 業務担当者の労働安全衛生に関する労務管理については、業務責任者がその責任者となり、関係法令に従って行う。
- (2) 業務の実施に際し、アスベスト又はPCBの使用を確認した場合は、施設管理担当者に報告する。

15. 火気の取扱い

作業等に際し、原則として火気は使用しない。火気を使用する場合は、あらかじめ施設管理担当者の承諾を得るものとし、その取扱いに際しては十分注意する。

16. 喫煙場所

給食センター敷地内は禁煙とする。

17. 出入り禁止箇所

業務に関係のない場所及び室への出入りは禁止する。

18. 業務担当者

- (1) 業務担当者は、その作業等の内容に応じ、必要な知識及び技能を有するものとする。
- (2) 法令により作業等を行う者の資格が定められている場合は、当該資格を有する者が当該作業等を行う。

19. 代替要員

業務内容により代替要員を必要とする場合には、あらかじめ施設管理担当者に報告し、承諾を得るものとする。

20. 服装等

- (1) 業務関係者は、業務及び作業に適した服装並びに履物で業務を実施する。
- (2) 業務関係者は、名札又は腕章を着けて業務を行う。

21. 別契約の業務等

- (1) 業務に密接に関連する別契約の業務の有無は、特記による。
- (2) 常駐して行う業務においては、施設管理担当者の監督下において、他業務責任者との調整を図り円滑に業務を実施する。

22. 行事等への立会い

防災訓練等の業務実施施設において開催される行事等への立会いは、支障が無い範囲で参加を要する。

23. 施設管理担当者の立会い

作業等に際して施設管理担当者の立会いを求める場合は、あらかじめ申し出る。

24. 業務の報告

業務責任者は、作業等の結果を記載した業務報告書を作成し、施設管理担当者へ、あらかじめ定められた日に報告する。

25. 廃棄物の処理等

- (1) 業務の実施に伴い発生した廃棄物の処理は、原則として受注者の負担とする。ただし、「汚水槽・雑排水槽の清掃」のうち雑排水槽の清掃による汚泥等及びごみ収集、吸殻収集、汚物収集等による廃棄物は除く。
- (2) 発生材の保管場所及び集積場所は、特記による。

26. 産業廃棄物等

- (1) 業務の実施に伴い発生した産業廃棄物等は、積み込みから最終処分までを産業廃棄物処理業者に委託し、マニフェスト交付を経て適正に処理する。
- (2) 特別管理産業廃棄物は、人の健康や生活環境に被害を生じる恐れが多いため、その取扱いや処理方法等を定めた法律等を遵守して、適切に処理する。

27. 業務の検査

受注者は、契約書に基づき、その支払いに係る請求を行うときは次の書類を用意し、発注者の指定した者が行う業務の検査を受けるものとする。

- (1) 契約図書
- (2) 業務計画書、作業計画書、業務報告書

28. 支払い

契約書に基づく検査に合格したときは、適法な請求書を受けた日から30日以内に委託料を支払うものとする。

29. 故障発生時の対応

故障が生じた場合は、施設管理担当者の連絡により速やかに適切な点検、調整、応急処置を講ずるとともに結果を報告すること。この費用は受注者の負担とする。

第2編 定期点検等及び保守

第1章 一般事項

1. 適用

建築物等の定期点検、臨時点検及び保守等に関する業務に適用する。

2. 点検の範囲

- (1) 定期点検及び臨時点検の対象部分、数量等は、特記による。
- (2) 特記した対象部分について本編各章に示す点検を実施し、その結果を報告する。なお、特記した対象部分以外であっても、異常を発見した場合には、施設管理担当者に報告する。
- (3) 特記した対象部分に、本編各章の点検項目又は点検内容の対象となる部分がない場合は、当該点検項目又は点検内容に係る点検を実施することを要さない。

3. 保守の範囲

定期点検及び臨時点検の結果に応じ実施する保守の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 汚れ、詰まり、付着等がある部品又は点検部の清掃（フィルタ類等）
- (2) 取付け不良、作動不良、ずれ等がある場合の調整
- (3) ボルト、ねじ等で緩みがある場合の増締め
- (4) 次に示す消耗部品の交換又は補充
 - ① 潤滑油、グリス、充填油等
 - ② ランプ類、ヒューズ類
 - ③ パッキン、ガスケット、Ｏリング類
 - ④ 精製水
- (5) 接触部分、回転部分等への注油
- (6) 軽微な損傷がある部分の補修
- (7) 塗装（タッチペイント）
- (8) その他これらに類する軽微な作業

4. 点検及び保守等の実施

- (1) 本編各章に定めるところにより点検を適正に行い、必要に応じて、保守その他の措置を講ずる。
- (2) 点検を行う場合には、あらかじめ施設管理担当者から劣化及び故障状況を聴取し、点検の参考とする。
- (3) 点検は、原則として目視、触接又は軽打等により行う。
- (4) 測定を行う点検は、定められた測定機器又は当該事項専用の測定機器を使用する。
- (5) 異常を発見した場合には、同様な異常の発生が予想される箇所の点検を行う。

5. 周期の表記

定期点検の周期の表記は、次による。

- (1) 「1 W」は、1 週ごとに行うものとする。
- (2) 「2 W」は、2 週ごとに行うものとする。
- (3) 「1 M」は、1 月ごとに行うものとする。
- (4) 「2 M」は、2 月ごとに行うものとする。
- (5) 「3 M」は、3 月ごとに行うものとする。
- (6) 「4 M」は、4 月ごとに行うものとする。
- (7) 「6 M」は、6 月ごとに行うものとする。
- (8) 「2 / Y」は、1 年に2 回行うものとする。
- (9) 「1 Y」は、1 年ごとに行うものとする。

6. 支給材料

保守に用いる次の消耗品、付属品等は、特記がある場合を除き、支給材料とする。

- (1) ランプ類（照明用ランプ、表示灯を含む）
- (2) ヒューズ類
- (3) パッキン、Oリング類
- (4) 蓄電池用精製水
- (5) 発電機用燃料（オイルを含む）
- (6) フィルタ類
- (7) 乾電池類
- (8) 塗料（タッチペイント）

7. 応急措置等

- (1) 点検の結果、対象部分に脱落、落下又は転倒の恐れがある場合、また、継続使用することにより著しい損傷又は関連する部材・機器等に影響を及ぼすことが想定される場合は、簡易な方法により応急措置を講じるとともに、速やかに施設管理担当者に報告する。
- (2) 落下、飛散等の恐れがあるものについては、その区域を立入禁止にする等の危険防止措置を講じるとともに、速やかに施設管理担当者に報告する。

8. 点検の省略

- (1) 次に掲げる部分は、点検を省略することができる。ただし、特記がある場合はこの限りでない。
 - ア. 容易に出入りできる点検口のない床下又は天井裏にあるもの
 - イ. 配管又は配線のための室、屋上その他にある機器で、容易に出入りできない場所にあるもの
 - ウ. 電気の通電又は運転を停止することが極めて困難な状況にあるもの及びその付近にあるもので、点検することが危険であるもの
 - エ. 地中若しくはコンクリートその他の中に埋設されているもの
 - オ. 足場のない給気又は排気のための塔

カ．ロッカー、家具等があり点検不可能なもの

9．点検及び保守に伴う注意事項

- (1) 点検及び保守の実施の結果、対象部分を現状より悪化させてはならない。
- (2) 点検及び保守の実施に当たり、仕上げ材、構造材等の一部撤去又は損傷を伴う場合には、あらかじめ施設管理担当者の承諾を受ける。

10．法定点検等

- (1) 本編各章の点検を「建築基準法」及び「官公庁施設の建設等に関する法律」による点検（以下、「法定点検」という。）とする場合は、特記による。なお、当該点検は必要な資格を有する者が行う。

第2章 機械設備

1．一般事項

(1) 適用

本章は、建築物等の機械設備に関する業務に適用する。

(2) 業務目的

本業務は、機械設備について専門的見地から点検又は測定等により劣化及び不具合の状況を把握し、保守の措置を適切に講ずることにより、所定の機能を維持し、事故・故障等の未然の防止に資することを目的とする。

(3) 用語の定義

本章において用いる用語の定義は、次のとおりとする。

- ア．「性能点検」とは、労働安全衛生法第41条第2項に定める性能検査及び人事院規則10-4第32条第1項に定める性能検査に該当するものをいう。
- イ．「月例点検」とは、労働安全衛生法第45条第1項に定める定期自主検査及び人事院規則10-4第32条第1項に定める定期検査に該当するものをいう。
- ウ．「シーズンイン点検」とは、冷房又は暖房期間開始直前に行う点検をいう。
- エ．「シーズンオン点検」とは、冷房又は暖房期間中に行う点検をいう。
- オ．「シーズンオフ点検」とは、冷房又は暖房期間終了直後に行う点検をいう。

(4) 周期の表記

点検の周期の表記は、次による。

- ア．「IN」は、シーズンイン点検を示すものとする。
- イ．「ON」は、シーズンオン点検を示すものとする。
- ウ．「OFF」は、シーズンオフ点検を示すものとする。

(5) フロン類の取扱い

フロン類は、「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」に基づき適切に取扱うものとする。

2. 貫流式ボイラー

- (1) 本項に規定する貫流式ボイラーは、燃料としてガスを使用するものに適用する。
- (2) 貫流式ボイラーに付属する燃焼装置等の点検・保守は、消防法、消防法に基づく各地方条例、危険物の規制に関する政令、危険物の規制に関する規則、ガス事業法、液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律等の関係法令を遵守し適切に実施する。
- (3) 貫流式ボイラーの総合点検項目、通常点検項目及び点検内容は、表2-1による。
- (4) 表2-1の点検業者は㈱ヒラカワとし、点検周期は、次による。
 - ア. 総合点検 1 回、通常点検 2 回
 - イ. ボイラ水、ボイラ給水の採水及び分析 月 1 回
- (5) 対象機器 型式 CG-1500 貫流式蒸気ボイラー比例制御 2 台 (㈱ヒラカワ製)
- (6) (4) イ. の水分析結果報告書を基にボイラ内部の状態を読み取り、ボイラストップを引き起こす因子を未然に取り除くための改善・提案を行い、報告すること。
- (7) 煤煙測定の実施(年／2回)

表2-1 貫流式ボイラー

点検項目	点検内容	周期	備考
1. 軟水器関係	① 軟水器外観の状況	3／Y	
	② 塩水タンク外観の状況	3／Y	
	③ 給水 1 次側水圧1Mpa～0.5Mpa	3／Y	
	④ 軟水チェックの実施	3／Y	
	⑤ ストレーナー網の確認	3／Y	
	⑥ ストレーナー網の変形・破損	3／Y	
	⑦ 再生ピン破損の有無	3／Y	
	⑧ 再生サイクル設定ギア状況	3／Y	
	⑨ 再生ノブ破損・変形の有無	3／Y	
	⑩ シーリング交換キット破損の有無	3／Y	
	⑪ 24時間ギア破損の有無	3／Y	
	⑫ 24時間タイマー作動確認	3／Y	
	⑬ その他ギア破損の有無	3／Y	
	⑭ ピストン破損・変形の有無	3／Y	
	⑮ 軟水器再生動作状況確認	3／Y	
	⑯ 軟水採水の実施	3／Y	
	⑰ 再生サイクル	3／Y	
	⑱ 塩橋の有無	3／Y	

薬注器関係	⑱ 塩水バルブ破損の有無	3 / Y	
	⑳ 塩水フロートの破損・変形の有無	3 / Y	
	① 薬品漏れの有無	3 / Y	
	② 薬品の補充状況確認	3 / Y	
	③ 薬注ポンプヘッド破損の有無	3 / Y	
	④ 吐出側チャッキ破損の有無	3 / Y	
	⑤ 吸込側チャッキ破損の有無	3 / Y	
	⑥ タンク吐出チャッキ破損の有無	3 / Y	
	⑦ コントローラーの動作状況の確認	3 / Y	
	⑧ 薬注吐出状況の確認	3 / Y	
給水関係	⑨ ダイヤル設定	3 / Y	
	⑩ 薬品吐出量	3 / Y	
	① 給水ストレーナー網状態の確認	3 / Y	
	② 給水ストレーナー網破損の有無	3 / Y	
	③ 給水配管各所水漏れの有無	3 / Y	
	④ 給水ポンプ回転方向の確認	3 / Y	
	⑤ 給水ポンプ異音発生の有無	3 / Y	
	⑥ 給水流量計動作チェック	3 / Y	
	⑦ 給水逆流チェック	3 / Y	
	⑧ 給水電磁弁弁越し漏れの有無	3 / Y	
バーナー関係	⑨ ドレンタンク水漏れの有無	3 / Y	
	⑩ ドレンタンク外観の状況	3 / Y	
	⑪ ドレンタンク水面計ガラスの状況	3 / Y	
	① バーナー先端部目視確認	3 / Y	
	② エレクトロード破損・変形の確認	3 / Y	
	③ 覗き窓ガラス破損の有無	3 / Y	
	④ ウルトラビジョン破損の確認	3 / Y	
	⑤ ウルトラビジョンの掃除	3 / Y	
	⑥ パイロットバーナー破損・変形の有無	3 / Y	
	⑦ パイロット銅管破損・変形の有無	3 / Y	
本体関係	⑧ バーナープレート掃除	3 / Y	
	⑨ リード線・プラグキャップの点検	3 / Y	
	⑩ 点火トランスの点検	3 / Y	
	① 水面計ガラス減肉の有無	3 / Y	
	② 水面計ガラスの交換	3 / Y	
	③ 水面計カバー増し締めの実施	3 / Y	
	④ 給水配管水漏れの有無	3 / Y	
	⑤ 主蒸気バルブ蒸気水漏れの有無	3 / Y	

	⑥ 電極棒の状態確認	3 / Y	
	⑦ 電極棒の絶縁チェック	3 / Y	
	⑧ 缶水温度センサー電極状態確認	3 / Y	
	⑨ 缶水濃度センサーの絶縁チェック	3 / Y	
	⑩ 連ブロー電極弁動作チェック	3 / Y	
	⑪ 連ブローY形ストレーナ網目詰まりの有無	3 / Y	
	⑫ 連ブロー配管水漏れの有無	3 / Y	
	⑬ 缶内目視チェック	3 / Y	
	⑭ 炉内目視チェック	3 / Y	
	⑮ ブロー配管水漏れの有無	3 / Y	
	⑯ 缶体水漏れの有無	3 / Y	
	⑰ 缶体後部側面排ガスの有無	3 / Y	
	⑱ 安全弁蒸気・水漏れの有無	3 / Y	
	⑲ 蒸気配管蒸気漏れの有無	3 / Y	
	⑳ エコノマイザー水漏れの有無	3 / Y	
	㉑ 送風機網目詰まりの有無	3 / Y	
	㉒ 送風機インペラ変形・破損の有無	3 / Y	
	㉓ 送風機モーター回転方向の確認	3 / Y	
	㉔ 送風機モーター異音の有無	3 / Y	
	㉕ ダンパモーター動作状況確認	3 / Y	
	㉖ ダンパ板変形の有無	3 / Y	
	㉗ ダンパ軸変形の有無	3 / Y	
	㉘ ダンパMスイッチ破損の有無	3 / Y	
	㉙ マイクロスイッチ位置合わせ	3 / Y	
	㉚ 缶水採水の実施	3 / Y	
	㉛ 給水ポンプ電流値	3 / Y	
	㉜ 送風機モーター電流値	3 / Y	
燃料関係	① ガスストレーナ網詰まりの有無	3 / Y	
	② パイロット電磁弁動作状況確認	3 / Y	
	③ メインガス遮断弁動作確認	3 / Y	
	④ メインガス遮断弁油漏れの確認	3 / Y	
	⑤ Mガス遮断弁弁越し漏れの有無	3 / Y	
	⑥ ガス電磁弁弁越し漏れの確認	3 / Y	
	⑦ ガス流量計動作の確認	3 / Y	
安全装置関係	① 低水位遮断テストの実施	3 / Y	
	② 不着火テストの実施	3 / Y	
	③ 途中消炎テストの実施	3 / Y	
	④ H i / L o 切替用圧力スイッチ動作	3 / Y	

設定値関係	⑤ 高圧カット用圧力スイッチ動作	3 / Y	
	⑥ 風圧スイッチ動作テスト確認	3 / Y	
	⑦ ガス圧力スイッチ動作テスト確認	3 / Y	
	⑧ 排ガス温度センサー動作テスト確認	3 / Y	
	⑨ 安全弁吹き出しテスト確認	3 / Y	
	⑩ 感震器動作確認	3 / Y	
	① ガス圧力スイッチ設定値	3 / Y	
	② 風圧スイッチ設定値	3 / Y	
	③ 発停用圧力スイッチ設定値	3 / Y	
	④ H i / L o 切替用圧力スイッチ設定値	3 / Y	
その他	⑤ 圧力カット用圧力スイッチ設定値	3 / Y	
	⑥ 給水ポンプ開閉器サーマル設定値	3 / Y	
	⑦ 送風器開閉器サーマル設定値	3 / Y	
	① キャスター焼損・脱落有無	3 / Y	
	② 水管変形・焼損・水漏れ有無	3 / Y	
	③ 水管煤付着の有無	3 / Y	
	④ デフューザーの焼損・脱落	3 / Y	
	① 各端子台増し締めの実施	3 / Y	
	② 各配管継ぎ手増し締めの実施	3 / Y	
	③ ボイラー本体廻り可燃物の有無	3 / Y	
水分析関係	④ 煙道ダンパ開放	3 / Y	
	① 燃焼時間、PH、電気伝導度、塩化異音、薬注濃度、外観	3 / Y	
マイコン運転設定		3 / Y	
マイコン累積データ		3 / Y	
ガス漏れテスト		1 / Y	
煤煙測定		2 / Y	

3. 空冷電気式ヒートポンプエアコン

(1) 「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」及びこれに基づく環境省告示に定めるところによる。

① フロン抑制法に適用した点検

② 点検結果報告書の作成

(2) ヒートポンプエアコン（シーズンイン点検）の点検項目及び点検内容は、表2-2による。

(3) 点検業者は、日本キャリア㈱とし、点検周期は、次による。

ア. シーズンイン点検：年2回。

(4) 対象機器 RCAC511D 2セット 東芝キヤリア(株)製

中温用空冷パッケージエアコン 天吊露出型

表2-2 空冷電気式ヒートポンプエアコン

点検項目	点検内容	周期	備考
1. 室外機側電源回路	① 非通電による確認する。(ブレーカ切)	2 / Y	I N
	② 絶縁測定を行う。	2 / Y	I N
2. 圧縮機	① 非通電による確認する。(ブレーカ切)	2 / Y	I N
	② 絶縁測定を行う。	2 / Y	I N
3. 電装品ビス	① 通電による確認する。ブレーカ切)	2 / Y	I N
	② 緩み (I マーク) 確認を行う。(初回時のみトルク確認)	2 / Y	I N
4. 端子接続部	① 通電による確認する。(ブレーカ切)	2 / Y	I N
	② 緩み (I マーク) 確認を行う。(初回時のみトルク確認)	2 / Y	I N
5. 電圧測定	① 運転前確認をする。	2 / Y	I N
	② 無負荷電圧測定を行う。	2 / Y	I N
6. 外気測定	① 運転前確認をする。	2 / Y	I N
	② 外気温度測定を行う。	2 / Y	I N
7. 室外機	① 負荷電圧の測定を行う。	2 / Y	I N
	② 総合・圧縮機電流の測定を行う。	2 / Y	I N
	③ 圧縮機運転周波数の測定を行う	2 / Y	I N
	④ 冷媒圧縮測定 (低圧圧力) を行う。	2 / Y	I N
	※高圧圧力は凝縮温度により換算	2 / Y	I N
	⑤ 冷媒配管温度測定を行う。	2 / Y	I N
	⑥ 目視確認 (筐体外観・圧縮機・送風機・熱交換器・配管接	2 / Y	I N
	触・結束バンド・冷媒回路部品) を行う。	2 / Y	I N
	⑦ 運転音確認を行う。	2 / Y	I N
	⑧ 電気部品動作確認を行う。	2 / Y	I N
8. 室内機	① リモコン動作確認を行う。(表示・ボタン・点検コード)	2 / Y	I N
	② 吸込み吹出し温度測定を行う。	2 / Y	I N
	③ 運転音確認を行う。	2 / Y	I N
	④ 目視確認を行う。	2 / Y	I N
	(パネル・グリルを含む外観・エアーフィルタ・熱交換器)	2 / Y	I N
	⑤ ドレンパン簡易点検を行う。(点検コードによる一次判別)	2 / Y	I N
	⑥ 電気部品動作確認を行う。	2 / Y	I N
		2 / Y	I N

4. 吸収式冷温水機

- (1) 吸収冷温水機に付属する燃焼装置等の保守は、消防法、消防法に基づく各地方条例、危険物の規制に関する政令、危険物の規制に関する規則、ガス事業法、液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律等の関係法令を遵守し適切に実施する。
- (2) 吸収式冷温水器の保守点検項目及び点検内容は、表2-3による。
- (3) 点検業者は、川重冷熱工業㈱とし、点検周期は、次による。
 ア．シーズンイン点検：冷房又は暖房の運転期間開始前に年各1回
 イ．シーズンオン点検：冷房又は暖房の運転期間中の適切な時期に年各1回
- (4) 対象機器 型式 ΣTUI-250AQ6C 1台
 川重冷熱工業㈱製 排熱投入型吸収式冷温水機（排熱温水標準型：屋外設置）
- (5) 煤煙測定の実施(年／2回)

表2-3 吸収式冷温水機

点検項目	点検内容	周期	備考
冷房及び暖房開始試運転調整	① 切替運転準備作業	2／Y	I N
	② 本体冷暖切替弁の切替	2／Y	I N
	③ 真空度のチェックと抽気	2／Y	I N
	④ ポンプ・モーター類の絶縁抵抗測定	2／Y	I N
	⑤ 燃料配管系の漏洩チェック	2／Y	I N
	⑥ 安全装置の点検確認	2／Y	I N
	⑦ 燃料状態の点検調整	2／Y	I N
	⑧ 運転データ計測と点検	2／Y	I N
	⑨ 本体自動制御系の点検確認	2／Y	I N
	⑩ 各部総合点検	2／Y	I N
冷房及び暖房運転中点検調整	① 真空度のチェック	2／Y	I N
	② 燃焼状態の点検	2／Y	I N
	③ 運転データの計測と点検	2／Y	I N
	④ 本体自動制御系の点検確認	2／Y	I N
	⑤ 冷房時の冷却水水質の簡易分析	2／Y	I N
	⑥ 各部総合点検	2／Y	I N
冷却水チューブ洗浄	① 水室の開閉（片側開放）	1／Y	I N
	② チューブ・水室及び管板の点検	1／Y	I N
	③ チューブブラッシング	1／Y	I N
	④ パッキン取替	1／Y	I N
	⑤ 水室蓋板の錆落とし及び塗装（管板面の塗装は除く）	1／Y	I N
インヒビターの分析・補充	① 吸収液を分析し、インヒビターを必要に応じ補充して濃度管理をする。	1／Y	I N
		2／Y	I N

ばい塵測定	① ばい塵測定	2 / Y	
	② 窒素酸化物濃度測定	2 / Y	

5. 空冷ガスヒートポンプエアコン

(1) 「建築物における衛生的環境の確保に関する法律施行規則」及びこれに基づく厚生労働省告示に定めるところによる。

(2) 空冷ガスヒートポンプエアコンの保守点検項目及び点検内容は、表2-4による。

(3) 点検業者は、ヤマエエネルギーシステム㈱とし、点検周期は、次による。

ア. 年間点検：年1回

(4) 対象機器 ヤマエエネルギーシステム㈱製

YNZP224H1NB 1台、YNZP355H1NB 2台、YNZP450J-NB 1台、YNZP560J-NB 3台

YWZP450J-NB 2台、YWZP560J-NB 2台、YWZP710J-NB 4台 計15台

表2-4 空冷ガスヒートポンプエアコン.

点検項目	点検内容	周期	備考
保守点検	<p>下記点検仕様にに基づき1年間に1回の保守点検を行い、部品交換時期に到達した部品交換を行う。点検整備時に不良箇所又は障害個所を発見した場合、速やかに修復作業を行いGHPが正常かつ安全な運転を保持する。</p> <p>故障修理が発生した場合、速やかにサービスマンを派遣し、適切な故障修理を無償に行う。</p> <p>故障修理期間は、システム設置日から経過年数が13年もしくはシステムの通算時間が30,000時間（どちらか早く到達したほうを優先する）を超過した後に発生した故障修理に要する費用は別途とする。</p> <p>（*対象機器は室外機及びそれに対応する室内機本体及び標準コントローラー本体）</p> <p>（保守点検期間…システム設置経過年数が13年もしくはシステムの通算運転時間が30,000時間（どちらか早く到達したほうを優先する）に到達した際のシステム総合点検。オーバーホールは契約対象とする。</p>		
1. エンジン	<p>① エアクリーナーエレメントの確認・交換 （交換は5年又は10,000時間のいずれか早い時期）</p> <p>② 吸気ゴムホースの状態点検（亀裂。損傷、クリップ等）</p> <p>③ 排気ゴムホースの状態点検（亀裂。損傷、クリップ等）</p> <p>④ 排気ドレンフィルタの状態（方解石の補充又は洗浄）</p> <p>⑤ 排気ドレンホースの状態点検（亀裂。損傷、クリップ等）</p> <p>⑥ バルブクリアランスの調整</p> <p>⑦ 点火プラグ（交換は5年又は10,000時間のいずれか早い時期）</p>	<p>1 Y</p> <p>1 Y</p> <p>1 Y</p> <p>1 Y</p> <p>1 Y</p> <p>1 Y</p> <p>1 Y</p>	

2. 潤滑油系	⑧ プラグキャップ・コード	1 Y	
	⑨ 各部油・水・ガス漏れ 漏れ点検	1 Y	
	⑩ 防振ゴムの状態点検（亀裂・損傷）	1 Y	
	⑪ エンジンの始動性及び異音	1 Y	
	① 潤滑油交換	1 Y	
	（交換は5年又は10,000時間のいずれか早い時期）	1 Y	
	② 潤滑油フィルタ		
	（交換は5年又は10,000時間のいずれか早い時期）	1 Y	
	③ 潤滑油ゴムホース点検（亀裂、損傷、クリップ等）	1 Y	
	④ 潤滑油漏れ	1 Y	
3. 燃料系	① ガス漏れの有無	1 Y	
	② ガスレギュレタの状態	1 Y	
	③ ガスホースの状態点検（亀裂、損傷、クリップ等）	1 Y	
4. 冷却水系	（交換は10年又は20,000時間のいずれか早い時期）	1 Y	
	① 冷却水 LLC濃度は50%	1 Y	
	（交換は10年又は20,000時間のいずれか早い時期）	1 Y	
	② 冷却水ポンプの状態	1 Y	
5. 圧縮機・配管系	③ 冷却水ゴムホースの状態点検（亀裂、損傷、クリップ等）	1 Y	
	① 圧縮機の取付及び異音	1 Y	
	② 冷媒配管の状態	1 Y	
	③ 冷媒及び冷凍機油の漏れ 漏れ点検	1 Y	
	④ 駆動ベルト状態（芯出し状態）	1 Y	
	⑤ メカシールの状態	1 Y	
	⑥ ヒーターの状態	1 Y	
6. 電気装置	① 配線・カブラの接続部の状態	1 Y	
	② リモコンの機能状態	1 Y	
	③ センサ・スイッチの機能状態	1 Y	
	④ アクチュエーターの機能状態	1 Y	
7. その他	① 換気ファンの状態（エンジンルーム）	1 Y	
	② 運転音（騒音）定常運転時確認	1 Y	
	③ 振動 定常運転時確認	1 Y	
	④ さび・がたつき 外観・内部	1 Y	
	⑤ ラジエータファンの状態 異音の有無	1 Y	
	⑥ ラジエータファンの状態、虫・異物つまり、汚れ確認	1 Y	
	⑦ 室内機エアフィルタの状態汚れ確認	1 Y	
	⑧ 運転データ採取パソコンによるデータ採取	1 Y	

6. ガス・コージェネレーション

(1) 「建築物における衛生的環境の確保に関する法律施行規則」及びこれに基づく厚生労働省告示に定めるところによる。

(2) ガスコージェネレーション保守点検項目及び点検内容は、表2-5による。

(3) 点検業者は、ヤマエエネルギーシステム(株)とし、点検周期は、次による。

ア. 年間点検：年1回

(4) 対象機器 CP35VCZ-TNE 2台 ヤマエエネルギーシステム(株)製

屋外設置停電対応型マイクロコージェネレーションユニット

表2-5 ガス・コージェネレーション

点検項目	点検内容	周期	備考
保守点検	<p>下記点検仕様にに基づき1年間に1回の保守点検を行い、部品交換時期に到達した部品交換を行う。点検整備時に不良箇所又は障害箇所を発見した場合、速やかに修復作業を行いCPが正常かつ安全な運転を保持する。</p> <p>故障修理が発生した場合、速やかにサービスマンを派遣し、適切な故障修理を無償に行う</p> <p>故障修理期間は、システム設置日から経過年数が10年もしくはシステムの通算時間が30,000時間（どちらか早く到達したほうを優先する）を超過した後に発生した故障修理に要する費用は別途とする。</p> <p>*対象機器は、CP35VCZ-TN及4び標準コントローラー本体）</p> <p>（保守点検期間…システム設置経過年数が10年もしくはシステムの通算運転時間が60,000時間（どちらか早く到達したほうを優先する）に到達した際のシステム総合点検。オーバーホールは契約対象とする。</p>		
1. エンジン	<p>① エアクリーナーエレメントの確認・交換 （交換は5年又は10,000時間のいずれか早い時期）</p> <p>② 吸気ゴムホースの状態点検（亀裂、損傷、クリップ等）</p> <p>③ 排気ゴムホースの状態点検（亀裂、損傷、クリップ等）</p> <p>④ 排気ドレンフィルタの状態（方解石の補充又は洗浄）</p> <p>⑤ 排気ドレンホースの状態点検（亀裂、損傷、クリップ等）</p> <p>⑥ バルブクリアランスの調整</p> <p>⑦ 点火プラグ（交換は5年又は10,000時間のいずれか早い時期）</p> <p>⑧ プラグキャップ・コード</p> <p>⑨ 各部油・水・ガス漏れ 漏れ点検</p> <p>⑩ 防振ゴムの状態点検（亀裂・損傷）</p> <p>⑪ エンジンの始動性及び異音</p>	<p>1 Y</p> <p>1 Y</p> <p>1 Y</p> <p>1 Y</p> <p>1 Y</p> <p>1 Y</p> <p>1 Y</p> <p>1 Y</p> <p>1 Y</p> <p>1 Y</p>	

2. 潤滑油系	① 潤滑油交換 (交換は5年又は10,000時間のいずれか早い時期)	1 Y 1 Y	
	② 潤滑油フィルタ (交換は5年又は10,000時間のいずれか早い時期)	1 Y	
	③ 潤滑油ゴムホース点検 (亀裂、損傷、クリップ等)	1 Y	
	④ 潤滑油漏れ	1 Y	
3. 燃料系	① ガス漏れの有無	1 Y	
	② ガスレギュレタの状態	1 Y	
	③ ガスホースの状態点検 (亀裂、損傷、クリップ等) (交換は5年又は10,000時間のいずれか早い時期)	1 Y 1 Y	
4. 冷却水系	① 冷却水 LLC濃度は50% (交換は5年又は10,000時間のいずれか早い時期)	1 Y 1 Y	
	② 冷却水ポンプの状態	1 Y	
	③ 冷却水ゴムホースの状態点検	1 Y	
5. 発電機・制御盤系	① 絶縁抵抗の測定 発電機側配線端子	1 Y	
	② 端子・カブラの弛み 制御盤・パッケージ内各部	1 Y	
	③ 制御基板の状態	1 Y	
	④ 換気ファンの状態 制御ルーム内	1 Y	
	⑤ 換気ファンフィルタの清掃 制御ルーム内	1 Y	
	⑥ 発電機軸受 交換 (交換は4年又は12,000時間のいずれか早い時期)	1 Y 1 Y	
6. インバータ	① 端子・カブラの弛み	1 Y	
	② ケースのさび・がたつき	1 Y	
	③ 換気ファンの状態 インバータルーム	1 Y	
	④ 換気フィルタの清掃 インバータルーム	1 Y	
7. パッケージ	① 換気ファンの状態 エンジンルーム	1 Y	
	② 運転音 (騒音) 定常運転時確認	1 Y	
	③ 振動 定常運転時確認	1 Y	
	④ さび・がたつき	1 Y	
	⑤ ラジエータファンの状態 異音の有無	1 Y	
	⑥ ラジエータファンの状態 虫・異物つまり、汚れ確認	1 Y	
8. その他	① リモコンの状態 機能確認	1 Y	
	② 運転データ採取 パソコンによるデータ採取	1 Y	
	③ インターネット回線による状態監視	1 Y 1 Y	

7. 開放式冷却塔

(1) 冷却塔の点検・保守は、建築物における衛生的環境の確保に関する法律、同法に基づく厚生労働省告示等の関係法令を遵守し適切に実施する。

(2) 開放式冷却塔保守点検項目及び点検内容は、表2-6による。

(3) 点検業者は、荏原冷熱システム(株)とし、点検周期は、次による。

ア. 4月～6月中に1回/年

(4) 対象機器 型式 SDW-U250ASD 1台

荏原冷熱システム(株)製 低騒音型角形開放式冷却塔3φ-200 5.5×2

表2-6 開放式冷却塔

点検項目	点検内容	周期	備考
1. 水槽	① 下部水槽、上水槽の清掃、ストレーナー清掃	1 Y	
2. 送風機	① 駆動装置運転状態の確認、Vベルトの交換	1 Y	
3. 電動機	① 電流値及び絶縁抵抗測定	1 Y	
4. 散水装置	① 装置の点検調整	1 Y	
5. 補給水	① 補給水用ボールタップの点検	1 Y	
6. その他	① その他全般の点検	1 Y	

8. 開放式冷却塔水処理装置

(1) 冷却塔に付随する水処理装置は、建築物における衛生的環境の確保に関する法律、同法に基づく厚生労働省告示等の関係法令を遵守し適切に実施する。

(2) 開放式冷却塔水処理装置保守点検項目及び点検内容は、表2-7による。

(3) 点検業者は、東西化学産業(株)とし、点検周期は、次による。

ア. 4月～6月中に1回/年（冷却塔の運転中）ただし、令和8年度は6月に実施すること。

(4) 対象機器 型式 薬注装置サワコンSY-1B-C 薬注ポンプTS-T11F-VC 1式

東西化学産業(株)製

表2-7 開放式冷却塔水処理装置

点検項目	点検内容	周期	備考
冷却水処理装置点検			
a. 薬注装置	① 外観点検	1 Y	
b. 薬注タンク、 薬注ポンプ	① 漏れ確認	1 Y	
c. 薬注ポンプ・ブロー 装置	① 動作確認	1 Y	
d. 水質確認	① 冷却水薬注濃度、電気伝導率	1 M	
冷却水水質検査			

a. 水質検査	① 水素イオン濃度、電気伝導率、酸消費量(PH4.8)、酸消費量(PH8.3)、全硬度、カルシウム硬度、マグネシウム硬度、塩化物イオン、イオン状シリカ全鉄、冷却水処理薬剤濃度、SI値	1 M	
	② レジオネラ属菌検査 (8月実施)	1 Y	
冷却水処理剤			
a. 複合冷却水処理薬剤	① 抗レジオネラ属菌、トレーサー対応冷却水処理剤 (ハイクリーン MR-115 70K) 納品	1 Y	
	② 冷却水水質分析	1 Y	
b. 抗レジオネラ冷却水用除菌・殺藻洗浄剤	① バイオンス0P-2 (1セット×10本入り) 納品	1 Y	

9. 貯湯槽タンク

- (1) 労働安全衛生法に基づく定期自主検査及び人事院規則に基づく定期検査は、本項の仕様により実施する。
- (2) 労働安全衛生法に基づく性能検査及び人事院規則に基づく性能検査を実施するものとする。なお、登録性能検査機関等による性能検査に立ち会うものとし、申請料は受注者が負担するものとする。
- (3) 貯湯槽タンク保守点検項目及び点検内容は、表2-8による。
- (4) シーズンイン点検業者は、森松工業㈱とし、点検周期は、次による。
- ア. シーズンイン点検：運転期間開始前又は法定性能検査前に年1回（第一種圧力容器に限る）
- イ. シーズンオン点検：運転期間中に毎月1回（第一種圧力容器に限る。）
- (5) 対象機器 型式 TVW-1 ストレージタンク 1400Φ×2,448mmH_森松工業㈱製1基

表2-8 貯湯槽タンク

点検項目	点検内容	周期	備考
1. 基礎	① 亀裂、沈下の有無	1 Y	
	② 鋼製架台の発錆、腐食等の劣化の有無	1 Y	
	③ 発錆が有る場合は、錆部のケレン作業後、補修塗装を実施	1 Y	
2. 本体	① 内部の付着及び蓄積物の有無	1 Y	
	② 付着又は蓄積物がある場合は、除去・洗浄を行う	1 Y	
	③ 内部の割れ、腐食、損傷等の劣化の有無	1 Y	
	④ 加熱管外面スケール等の異物の付着・割れ、変形、腐食の劣化の有無、及び清掃	1 Y	
	⑤ 締付ボルトの緩み・腐食、曲り等の劣化の有無	1 Y	
	⑥ 緩み・劣化が発生の場合は増し締め・交換	1 Y	
3. 圧力計・温度計	① 指針が大気圧の下で0点を指示することを確認	1 Y	
	② 損傷劣化の有無	1 Y	

4. 逃し管	③ 導管、コックに詰りが無いか点検	1 Y	
	④ 正常温度を指しているか確認	1 Y	
	① 詰りの有無を確認	1 Y	
	① 分解清掃の上、弁座・弁体の腐食・損傷の有無	1 Y	
5. 安全弁及び逃し管	① 分解清掃の上、弁座・弁体の腐食・損傷の有無	1 Y	
6. 性能検査	① 登録製造時検査機関の実施する性能検査が速やかに実施できるよう準備・立会いを行う。	1 Y	

10. ユニット形空気調和機

(1) 「建築物における衛生的環境の確保に関する法律施行規則」及びこれに基づく厚生労働省告示に定めるところによる。

(2) ユニット形空気調和機（シーズンイン・オン点検）の点検項目及び点検内容は、表2-9による。

(3) シーズンイン点検業者は、クボタ空調㈱とし、点検周期は、次による。

ア. 点検：年1回

イ. シーズンオン点検：月1回（運転期間中に限る。）

(4) 対象機器 型式 MPV35RT MPV12RT MPV47RT MPV6RT MPV21RT 各1台 クボタ空調(株) 製
垂直型外気処理空気調和機（屋外設置）

表2-9 空気調和機（点検）

点検項目	点検内容	周期	備考
1. 基礎・固定部	① き裂、沈下等の有無を点検する。	IN	
	② 固定金具の劣化及び固定ボルトの緩みを点検する。	IN	
	③ 防振材、ストッパー等の劣化及び緩みの有無を点検する。	IN	
2. 外部の状況			
a. 本体	① 腐食、変形、破損等の有無を点検する。	IN	
b. 保温材・吸音材	② 損傷及び脱落の有無を点検する。	IN	
3. 送風機			
a. 羽根車	① 汚れ、さび、腐食等の有無を点検する。	IN	
	② 回転バランスの良否を点検する。	IN	
b. シャフト	① 汚れ、さび、摩耗等の有無を点検する。	IN	
c. ベルト	① 緩み、摩耗、損傷等の有無を点検する。	IN, ON	
d. プーリ	① 摩耗等の有無を点検する。	IN, ON	
e. 軸受	① 異常音、異常振動等の有無を点検する。	IN, ON	
	② 給油の状態を点検する。	IN	
f. カップリング	① 摩耗、損傷等の有無を点検する。	IN	
g. 電動機	① 絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。	IN	
	② 回転方向が正しいことを確認する。	ON	

4. 熱交換器	③ 表面温度の異常の有無を点検する。	IN, ON	
	④ 電流が定格値内であることを確認する。	IN, ON	
	① 冷温水コイル、蒸気コイル等の汚損、腐食、損傷等の有無を点検する。	IN	
5. 加湿器	① 加湿ノズルの詰まりの有無を点検する。	IN, ON	
	② 作動の良否を点検する。	IN, ON	
	③ 汚れ、損傷等の有無を点検する。	ON	
	④ 加湿状態点検用ランプが点灯することを確認する。	IN, ON	
6. エリミネータ	・詰まり、腐食等の有無を点検する。	IN, ON	
7. 水系統			
a. 加湿用給水	① 給水止弁の開閉を点検する。	ON	
	② 漏れ及び汚れのないことを確認する。	ON	
b. ドレンパン	・汚れ、さび、腐食等の有無を点検する。	IN, ON	
c. ドレン排水	・本体のドレン排水確認を行い、詰まりのないことを確認する	IN, ON	
8. エアフィルタ			
【プレフィルタ】			
a. ろ材	① 詰まり、損傷等の有無を点検する。	IN, ON	
b. 枠	① 変形、腐食等の有無を点検する。	IN, ON	
9. 運転調整	① 運転時における電圧変動が規定値内であることを確認する。	IN	
	② 運転電流が定格以下であることを確認する。	IN	

1 1. 給排気設備

(1) 「建築物における衛生的環境の確保に関する法律施行規則」及びこれに基づく厚生労働省告示に定めるところによる。

(2) 給気ファン・排気ファンの点検項目及び点検内容は、表2-10による。

(3) 点検周期は、次による。

ア. 点検：年1回

イ. シーズンオン点検：月1回

(4) 対象機器 給気・排気ファン テラル(株)製

①1階 下処理系統 屋外床置型 片吸込シロッコファン #3×7, 040CMH×550Pa

②1階 洗浄室系統 屋外床置型 片吸込シロッコファン #5×21, 030CMH×550Pa

排気ファン

③1階 下処理系統 屋外床置型 片吸込シロッコファン #3×6, 590CMH×300Pa

④1階 焼物・揚げ物蒸し物調理室系統 屋外床置型 片吸込シロッコファン (片持型厨房用) #4 1/2×25, 500CMH×450Pa

⑤1階 上処理系統 屋外床置型 片吸込シロッコファン (片持型厨房用)

#3×8, 970CMH×450Pa

⑥1階 煮炊調理系統 屋外床置型 片吸込シロッコファン（片持型厨房用）

#6×38, 120CMH×550Pa

⑦1階 和え物系統 屋外床置型 片吸込シロッコファン #2×3, 500CMH×300Pa

⑧1階 コンテナP系統 屋外床置型 片吸込シロッコファン（片持型厨房用）

#4×16, 940CMH×350Pa

⑨1階 洗浄室系統 屋外床置型 片吸込シロッコファン（片持型厨房用）

#4 1/2×19, 670CMH×400Pa

表2-10 給排気設備

点検項目	点検内容	周期	備考
1. 基礎・固定部	① き裂、沈下等の有無を点検する。	1 Y	
	② 固定金具の劣化及び固定ボルトの緩みを点検する。	1 Y	
	③ 防振材、ストッパー等の劣化及び緩みの有無を点検する。	1 Y	
2. 外部の状況			
a. 本体	① 腐食、変形、破損等の有無を点検する。	1 Y	
b. 保温材・吸音材	② 損傷及び脱落の有無を点検する。	1 Y	
3. 送風機			
a. 羽根車	① 汚れ、さび、腐食等の有無を点検する。	1 Y	
	② 回転バランスの良否を点検する。	1 Y	
b. シャフト	① 汚れ、さび、摩耗等の有無を点検する。	1 Y	
c. ベルト	① 緩み、摩耗、損傷等の有無を点検する。	1 Y	
	② Vベルトの取替	1 Y	
d. プーリ	① 摩耗等の有無を点検する。	1 Y	
e. 軸受	① 異常音、異常振動等の有無を点検する。	1 Y	
	② 給油の状態を点検する。	1 Y	
f. カップリング	① 摩耗、損傷等の有無を点検する。	1 Y	
g. 電動機	① 絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。	1 Y	
	② 回転方向が正しいことを確認する。	1 Y	
	③ 表面温度の異常の有無を点検する。	1 Y	
	④ 電流が定格値内であることを確認する。	1 Y	
4. 加湿器	① 加湿ノズルの詰まりの有無を点検する。	1 Y	
	⑤ 作動の良否を点検する。	1 Y	
	⑥ 汚れ、損傷等の有無を点検する。	1 Y	
	⑦ 加湿状態点検用ランプが点灯することを確認する。	1 Y	
6. エリミネータ	・ 詰まり、腐食等の有無を点検する。	1 Y	
7. 水系統			
a. 加湿用給水	① 給水止弁の開閉を点検する。	1 Y	

	② 漏れ及び汚れのないことを確認する。	1 Y	
b. ドレンパン	・ 汚れ、さび、腐食等の有無を点検する。	1 Y	
c. ドレン排水	・ 本体のドレン排水確認を行い、詰まりのないことを確認する	1 Y	
8. エアフィルタ			
【プレフィルタ】		1 Y	
a. ろ材	① 詰まり、損傷等の有無を点検する。	1 Y	
b. 枠	① 変形、腐食等の有無を点検する。	1 Y	
9. 運転調整	① 運転時における電圧変動が規定値内であることを確認する。	1 Y	
	② 運転電流が定格以下であることを確認する。	1 Y	

12. ポンプ

- (1) 本項は、空調機用ポンプに適用する。
- (2) ポンプの点検項目及び点検内容は、表2-11による。
- (3) 点検周期は次による。

シーズンイン点検：年1回

- (4) 対象機器： 空調用ポンプ テラル(株)製

①冷温水ポンプ 型式SJ4-125×100K611 片吸込渦巻ポンプ（屋外設置） 1台

②冷却水ポンプ 型式SJ5-150×125K615 片吸込渦巻ポンプ（屋外設置） 1台

③排熱回収ポンプ 型式SVM402-61.5 ライン型ポンプ（屋外設置）

※耐熱温度90℃ 2台

④タンクー一体型給水ポンプ（補給水、加湿系統） 型式 RMB5-25THP5-V150S

小型タンクー一体型加圧給水ポンプユニット 1台

表2-11 ポンプ

点検項目	点検内容	備考
1. 基礎・固定部	① 固定金具の劣化及び固定ボルトの緩みの有無を点検する。	
	② 防振材、ストッパー等の劣化及び緩みの有無を点検する。	
2. 外観の状況	① 腐食、損傷及び漏洩の有無を点検する。	
	② 軸継手ゴムの損傷等の有無を点検する。	
	③ ベルトの損傷等の有無を点検する。	
	④ 芯出しの良否を点検する。	
	⑤ ポンプの吸込圧力及び吐出圧力が許容範囲内にあることを確認する。	
	⑥ 軸封の漏水状態を点検する。	
3. 電動機	① 電動機が外部より調査できる場合は、発熱の異常の有無を点検する。	
	② 回転方向が正しいことを確認する。	
	③ 運転電流が定格値以下であることを確認する。	
4. 制御機器		

(小形給水ポンプユニット) A制御盤 B圧力発信器 5. 圧力タンク (小形給水ポンプユニット) 5. フート弁・逆止弁 6. 圧力計・連成計又は真空計 7. 運転調整	① 電磁開閉器の接点の劣化の有無の点検 ② 表示ランプの点灯の良否 ① 正常値を示していることを確認 ② 機能の異常の有無を点検 ① 腐食、損傷、水漏れ等の有無を点検する。 ② 封入ガスの圧力が規定値にあることを確認する。 ① 開閉状態の良否を点検する。 ① 腐食及び損傷の有無を点検する。 ② 指示値が適正であることを確認する。 ① 運転時における電圧変動が規定値内であることを確認する。 ② 運転電流が定格以下であることを確認する。	
---	--	--

第3章 監視制御設備

1. 一般事項

(1) 適用

本章は、建築物等の監視制御設備に関する業務に適用する。

(2) 業務目的

本業務は、監視制御設備について専門的見地から点検又は測定等により劣化及び不具合の状況を把握し、保守の措置を適切に講ずることにより、所定の機能を維持し、建築設備の適切な監視制御に支障がない状態の維持に資することを目的とする。

2. 中央監視制御装置

(1) 中央監視制御装置の点検項目及び点検内容は、表3-1による。

(2) 点検業者は、アズビル(株)とし、点検周期は次による。

点検：年1回

(3) 対象機器：メインコンソールユニット MCU（アズビル(株)製）

表3-1 中央監視制御装置

点検項目	点検内容	備考
総合保守	中央管制セントラルシステム 対象系統 ・中央監視装置（スマートスクリーン） ・システムリモート 専属の専門技術員が一貫して保守点検作業を計画・実施し、常に信頼性の高い状態でシステムの維持管理を行う。また、システムの機能を最適な状態に各制御ソフトウェアプログラムの設定を行う。 寿命部品のうちシステム本体のメモリ用バックアップバッテリー、冷却ファンの交換については保証。	
基本保守	熱源・ローカル一般機器 対象系統 ・熱源廻り制御 1セット ・冷却塔制御 1セット ・外調機制御 5セット ・コージェネ排熱利用制御 1セット ・ボイラー廻り制御 1セット ・貯湯槽制御 1セット ・環水槽制御 1セット ・減温水制御 4セット ・膨張タンク監視 3セット ・フィルタ目詰まり警報監視 2セット	

	<p>年1回総合点検整備を通じ専属の専門技術員が信頼維持の為保守業務を行う。</p> <p>また、システムトラブルなど緊急時（営業日の9時から17時の間）要請に対応する。</p>	
24時間緊急要請	24時間如何なる時でも専門の技術者が不具合、機器故障、操作方法等の問い合わせに対して受付を行い、対応方法等のアドバイスをを行い、必要に応じて迅速に対応を実施する。	
特記事項	<p>作業時間は、総合点検整備の原則として営業日平日9時～17時とする。</p> <p>交換機器・部品は、交換の必要を生じた部品又は機器代金は別途とするが交換作業費は、保守費用に含める。</p>	
1. スマートスクリーン MCU	<p>① バックアップバッテリーの確認</p> <p>ア. バックアップバッテリー放電電圧測定</p> <p>イ. バックアップバッテリー外観点検</p> <p>ウ. バックアップバッテリー定期交換</p> <p>② 電源電圧、リップルの測定、調整</p> <p>③ 各部のクリーンアップ</p> <p>④ インジケータ表示の確認</p> <p>⑤ ケーブル、コネクタ類の装着状態確認</p> <p>⑥ 各端子の締付確認</p> <p>⑦ 液晶ディスプレイ、タッチパネル設定の確認、調整</p> <p>ア. コントラストの調整</p> <p>イ. タッチパネル動作確認、調整</p> <p>⑧ システム基本機能の確認</p>	
2. デジタル式制御機器		
a. 制御動作	<p>① 制御パラメーターの設定確認</p> <p>② 設定値変更による操作器とのループ作動確認</p> <p>③ 実制御における制御精度の確認</p> <p>④ 実制御状態における制御の安定性の確認</p> <p>⑤ 空調チェックツールによる制御診断</p>	
b. センサ (検出器・発信器)	<p>① 設定環境及び取付位置・状態の確認</p> <p>② クリーンアップ</p> <p>③ 配線端子の緩み点検及び増し締め</p> <p>④ 作業用計測器による実測値との誤差点検及び校正</p>	

c. コントローラ	<ul style="list-style-type: none"> ① 外観、目視点検 ② インジケータの確認 ③ 配線端子、取付状態の緩み確認及び増し締め ④ クリーンアップ ⑤ メモリバックアップバッテリーの外観点検及び交換年月日の確認 ⑥ データファイルのバックアップ作成 ⑦ エラー情報の確認 	
d. 操作器 (バルブ・ダンパ)	<ul style="list-style-type: none"> ① 外観目視点検（汚れ、損傷、漏れ等） ② クリーンアップ ③ 配線端子・取付状態の緩み点検及び増し締め 	
3. 電子式制御機器		
a. 検出器・発信器	<ul style="list-style-type: none"> ① 外観目視点検及び取付状態の確認 ② 配線端子緩み点検及び増し締め ③ 実測又は標準試験器による誤作動点検及び校正 ④ 検出器または発信器・調節計・操作部等関連部とのループ作業点検調整 ⑤ 実制御に於ける制御状態での点検・確認・調整 	
b. 調節計	<ul style="list-style-type: none"> ① 外観目視点検及び取付状態の確認 ② じんあいの除去 ③ 配線端子緩み点検及び増し締め ④ 各設定の確認・調整 (比例帯・積分値・微分値・不感体・動作隙間) ⑤ 実測に対する点検校正 ⑥ 検出器又は発信器・調節計・操作部等関連部とのループ作動点検調整 ⑦ 規定値の設定 ⑧ 最適値の設定 ⑨ 実制御に於ける制御状態での点検・確認・調整 	
c. 変換器	<ul style="list-style-type: none"> ① 外観目視点検及び取付状態の確認 ② じんあいの除去 ③ 配線端子緩み点検及び増し締め ④ 電源・電圧の点検 ⑤ 標準試験器によりゼロ・スパン調整 ⑥ 各設定に対する出力信号の点検・調整 ⑦ 検出器又は発信器・調節計・操作部等関連部とのループ作動点検調整 ⑧ 実制御に於ける制御状態での点検・確認・調節 	
d. 操作器	<ul style="list-style-type: none"> ① 外観目視点検及び取付状態の確認 ② じんあいの除去 ③ リンゲージ組付状態の確認及びストローク調整・回転角度の調整 ④ モータ回転作動・回転角度の点検 	

e. 自動制御用調節弁	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ ポテンシオメータ接触点の清掃及び点検 ⑥ 検出器又は発信器・調節計・操作部等関連部とのループ作動点検調整 ⑦ 実制御に於ける制御状態での点検・確認・調節 ① 外観目視点検及び取付状態の確認 ② じんあいの除去 ③ グランド部漏れ点検 ④ バルブストローク作動点検及び閉止位置での漏れ点検・調整 ⑤ 検出器又は発信器・調節計・操作部等関連部とのループ作動点検調整 ⑥ 実制御に於ける制御状態での点検・確認・調節 	
-------------	--	--

第3編 日常点検・保守

第1章 一般事項

1. 点検の範囲

- (1) 日常点検の対象部分、数量等は特記による。
- (2) 電気室、機械室等の主要な設備機器の設置場所は、巡視して機器等の異常の有無を点検する。
なお、定められた対象部分以外であっても、異常を発見した場合には施設管理担当者に報告する。
- (3) 季節運転切替え、本予備機運転切替え
- (4) 特記した対象部分に、本編各章の点検項目又は点検内容の対象となる部分がない場合は、当該点検項目又は点検内容に係る点検を実施することを要さない。

2. 保守の範囲

日常点検の結果に応じ、実施する保守の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 汚れ、詰まり、付着等がある部品又は点検部の清掃（フィルタ類等）
- (2) 取り付け不良、作動不良、ずれ等がある場合の調整
- (3) ボルト、ねじ等で緩みがある場合の増締め
- (4) 次に示す消耗部品の交換及び補充
 - ① 潤滑油、グリス、充填油等
 - ② ランプ類（高さ3.5m以下に限る）、ヒューズ類
 - ③ パッキン、Oリング類
 - ④ 精製水の補充
 - ⑤ フィルタ類
- (5) 接触部分、回転部分等への注油
- (6) 軽微な損傷がある部分の補修
- (7) 塗料、その他の部品補修（タッチペイント）、その他これらに類する作業
- (8) 消耗品の在庫管理
- (9) 保守で生じた廃棄物処理
- (10) その他特記で定めた事項

3. 日常点検・保守の実施

本編各章に定めるところにより日常点検を適正に行い、必要に応じて、保守の措置を講ずる。

4. 周期の表記

日常点検・保守の周期の表記は、次による。

- (1) 「2H」は、2時間ごとに行うものとする。
- (2) 「1D」は、1日ごとに行うものとする。

- (3) 「4／D」は、1日に4回行うものとする。
- (4) 「2／D」は、1日に2回行うものとする。
- (5) 「1W」は、1週ごとに行うものとする。
- (6) 「1M」は、1月ごとに行うものとする。
- (7) 「2M」は、2月ごとに行うものとする。
- (8) 「3M」は、3月ごとに行うものとする。
- (9) 「2／M」は、1月に2回行うものとする。

5. 支給材料

保守に用いる次の消耗品、付属品等は、特記がある場合を除き、支給材料とする。

- (1) ランプ類（照明用ランプ、表示灯を含む）
- (2) ヒューズ類
- (3) パッキン、Oリング類
- (4) 蓄電池用精製水
- (5) 発電機用燃料（オイルを含む）
- (6) フィルタ類
- (7) 乾電池類
- (8) 塗料（タッチペイント）

6. 定期点検時の立ち会い

業務関係者は、発注者が実施する自家用電気工作物年次保安点検に立ち会い、必要な措置を講じる。

7. 機器等に異常を認めた場合の措置

業務責任者は、機器等に異常が認められた場合の連絡体制、対応方法について、施設管理担当者とはあらかじめ協議して定めておく。なお、緊急を要する場合は、業務関係者は必要な措置を直ちに講じる。

第2章 電気設備

1. 一般事項

(1) 適用

電気設備は、保安規程を遵守して、その日常運転・監視及び測定・記録を行うものとする。

2. 電灯・動力設備

(1) 電灯・動力設備の点検項目及び点検内容は、表2-1による。

(2) 点検周期：1M

(3) 対象機器：

表2-1 電灯・動力設備

点検項目	点検内容	備考
1. 照明器具	共用部分の点灯状態の確認を行う。	
2. 分電盤・照明制御盤等	① 異常音の有無を確認する。 ② 各開閉器等の開閉状態を点検する。	

3. 内部用自動ドア

(1) 内部用自動ドアの点検項目及び点検内容は、表2-2による。

(2) 点検周期：1M

(3) 対象箇所：1階風除室2カ所

表2-2 内部用自動ドア

点検項目	点検内容	備考
1. ドア・サッシ部	① ドア本体の傷、さび、腐食及び汚れの有無を点検する。 ② 自動ドア表示ステッカー又は警告ラベルの有無を点検する。 ③ ドア本体作動時の異常音の有無を点検する。	
2. センサー部	① センサー、補助センサーの取付け状態及び作動状態を点検する。 ② 併用センサーの作動状態を点検する。	
3. 電気回路	・通常開閉動作及び反転動作を点検する。	

第3章 機械設備

1. パッケージ型空気調和機

(1) 点検項目及び点検内容は、表3-1による。

(2) 点検周期：1M

- (3) 対象機器：型式 MPV35RT MPV12RT MPV47RT MPV6RT MPV21RT 各1台 クボタ空調(株) 製
垂直型外気処理空気調和機（屋外設置）

表3-1 パッケージ形空気調和機

点検項目	点検内容	備考
パッケージ形空気調和機	① 異常音及び異常振動の有無を点検する。 ② ドレン排水に支障のないことを確認する。 ③ フィルタ汚れの状況を確認する。	

2. ポンプ

(1) 点検項目及び点検内容は、表3-2による。

(2) 点検周期：1M

(3) 対象機器：テラル(株)製

① 冷温水ポンプ 型式SJ4-125×100K611 片吸込渦巻ポンプ（屋外設置） 1台

② 冷却水ポンプ 型式SJ5-150×125K615 片吸込渦巻ポンプ（屋外設置） 1台

③ 排熱回収ポンプ 型式SVM402-61.5 ライン型ポンプ（屋外設置）

※耐熱温度90℃ 2台

④ タンク一体型給水ポンプ（補給水、加湿系統） 型式 RMB5-25THP5-V150S

小型タンク一体型加圧給水ポンプユニット 1台

⑤ 水中ポンプ 40pv-6.25 4台

⑥ 消火用ポンプ NP-KB-NXF50 1台

⑦ 給湯用循環ポンプ 型式 SLP2-25-6.4 2台

表3-2 ポンプ

点検項目	点検内容	備考
ポンプ	① 各部の異常音、異常振動等の有無を点検する。 ② 軸封部からの水漏れが適当であることを確認する。 ③ 電動機に異常発熱がないことを確認する。 ④ 計器の指示値を確認する。 ⑤ ポンプ周辺の異常の有無を点検する。	

3. 送風機

(1) 送風機の点検項目及び点検内容は、表3-3による。

(2) 点検周期：1M

(3) 対象機器：

（天井内設置）

表3-3 送風機

点検項目	点検内容	備考
1. 基礎・固定部	① き裂、沈下等の有無を点検する。 ② 固定金具の劣化及び固定ボルトの緩みを点検する。 ③ 防振材の破損等の有無を点検する。 ④ 天井吊りの場合の脱落防止、吊り支持等の金具の緩み及び腐食の有無を点検する。	
2. 外観の状況	① 汚れの有無を点検する。 ② 腐食及びボルトの緩みの有無を点検する。	
3. 電動機	① 電動機が外部より調査できる場合は、発熱の異常の有無を点検する。 ② 回転方向が正しいことを確認する。	
4. 軸受	・発熱、異常音及び異常振動の有無を点検する。	
5. V ベルト	・緩み、摩耗、損傷等の有無を点検する。	
6. Vベルトカバー	・変形、損傷等の有無を点検する	
7. Vプーリ	① 摩耗、損傷等の有無を点検する。 ② 芯出しの良否を点検する。	
8. 羽根車	① 汚れ、変形、腐食等の有無を点検する。 ② ボルトの緩みの有無を点検する。 ③ ケーシング等に接触していないことを確認する。	
9. 運転調整	・運転電流が定格以下であることを確認する。	

4. 全熱交換器

(1) 天井隠ぺい形全熱交換器の点検項目及び点検内容は、表3-4による。

(2) 点検周期：1M

(3) 対象機器：三菱電機㈱製

①空気換気扇 型式LGH-N50CX 1台 ②空気換気扇 型式LGH-N65RX 2台 ③空気換気扇 型式LGH-N50CX ④空気換気扇 型式LGH-N25CX 1台 ⑤空気換気扇 型式LGH50-N50CX 1台 ⑥空気換気扇 型式LGH-N35CX 1台 ⑦空気換気扇 型式LGH-100RX

表3-4 全熱交換ユニット

点検項目	点検内容	備考
1. 固定部	① き裂、沈下等の有無を点検する。 ② 固定金具の劣化及び固定ボルトの緩みの有無を点検する。	
2. 外観の状況		
a. 本体・点検口	・さび、腐食、変形、破損等の有無を点検する。	
b. フィルタ	・詰まり、損傷等の有無を点検する。	
c. 保温材	・破損の有無を点検する。	
3. 熱交換エレメント		

a. 軸受	① 異常音、異常振動等の有無を点検する。	
【回転形に限る】	② 給油の状態を点検する。	
b. エレメント	① 詰まり、損傷等の有無を点検する。	
	② 回転形の場合は、回転バランスの良否を点検する。	
c. エアシール	・ 回転形の場合は、異常摩耗、破損等の有無を点検する。	
d. 駆動装置	・ 回転形の場合は、ベルト又はチェーンの緩み、損傷等の有無を点検する。	
e. ケーシング	・ 汚れ、さび、腐食等の有無を点検する。	
4. 送風機	・ 異常音、異常振動等の有無を点検する。	
5. 電気系統		
a. 電源電圧	・ 電圧の変動が規定値内であることを確認する。	
b. 電動機	① 表面温度の異常の有無を点検する。	
	② 電流が定格値内であることを確認する。	
c. リレー	・ 回転形の場合は、作動の良否を点検する。	
d. 端子類	・ 回転形の場合は、緩み、変色、溶損等の有無を点検する。	

5. 給排水衛生設備

(1) 給排水衛生設備の点検項目及び点検内容は、表3-5による。

(2) 点検周期：1M

(3) 対象機器： テラル(株)製

- ・ 加圧給水ポンプ 型式 NX-100VFC502-37T×3 推定末端圧力一定型インバーター制御 3/3 台並列運転 1 台
- ・ 衛生器具 一式

表3-5 給排水衛生設備

点検項目	点検内容	備考
1. ポンプ、陸上ポンプ	① 各部の異常音、異常振動等の有無を点検する。 ② 計器の指示値を確認する。 ③ 軸封部からの水漏れが適当であることを確認する。 ④ 電動機に異常発熱がないことを確認する。 ⑤ ポンプ周辺の異常の有無を点検する。 ⑥ 逆止弁の機能を確認する。	
2. 飲料水用水槽	① マンホール蓋の異常の有無及び施錠状態を確認する。 ② 内部の状況及び水位を確認する。 ③ 周囲の状況及び上部の状況から汚染等を受ける恐れがないことを確認する。 ④ 本体（6面）の状態を点検する。 ⑤ オーバーフロー管の異常の有無を確認する。	

3. 洗面器・手洗器・掃除流し・台所流し 小便器・大便器	⑥ 通気管の異常の有無を確認する。 ⑦ 水抜き管の異常の有無を確認する。 ⑧ 防虫網の異常の有無を確認する。 ① き裂、破損等の有無を点検する。 ② 器具と排水金具、排水管、トラップ等の接続部の緩み、水漏れ、腐食、損傷等の有無を点検する。 ③ 排水のひき具合及び詰まりの有無を点検する。 ④ トラップの封水の良否を点検する。 ⑤ 水圧及び吐水時間（自閉式水栓）の適否を点検する。 ⑥ 自動水栓及び自閉式水栓の作動の良否を点検する。	
---------------------------------	---	--

6. 吸収式冷温水機

（1）吸収式冷温水機の点検項目及び点検内容は、表3-6による。

（2）点検周期：1M

（3）対象機器：対象機器 型式 ΣTUI-250AQ6C 1台

川重冷熱工業(株)製 排熱投入型吸収式冷温水機（排熱温水標準型：屋外設置）

表 3-6 吸収式冷温水機

点検項目	点検内容	備考
1. 本体	① 真空度を確認する。 ② 水位を確認する。 ③ 漏水がないか点検する。	
ケーシング	④ 発錆、腐食、損傷の有無を点検する。	
保温材	⑤ ガス漏れがないか点検する。	
煙突	⑥ 脱落、損傷がないか点検する。	
煙道	⑦ 損傷の有無を点検する。	
2. 抽気装置	⑧ 雨水の浸入がないか点検する。	
	①作動状況を確認する。	
	②損傷の有無を点検する。	
3. 安全装置	①溶解栓温度ヒューズの異常の有無を確認する。	
4. 燃焼状態	①フレイムアイの機能を点検する。	
	②燃焼状態と炎色を点検する。	
	③設定温度運転状況を起動停止の状態点検する。	
ファン・電動機	④異音、振動、過熱がないか点検する。	
5. 制御盤	① ブレーカー、電磁開閉器の過熱の有無を点検する。	
	② 端子の過熱、変色の有無を点検する。	
	③ 表示灯を点検する。	

電磁弁	④作動状況を確認する。	
6. 排煙濃度計	①指針が適正範囲であるか点検する。 ②フィルターガラス、レンズの汚損の有無を点検する。 ③パージファンの作動状況を点検する。	

7. 貫流式ボイラー

(1) 貫流式ボイラーの点検項目及び点検内容は、表3-7による。

(2) 点検周期：1M

(3) 対象機器 型式 CG-1500 貫流式蒸気ボイラー比例制御 2台 (株)ヒラカワ製

表3-7 貫流式ボイラー

点検項目	点検内容	備考
1. 本体	① 真空度を確認する。 ② 水位を確認する。 ③ 漏水がないか点検する。	
ケーシング	④ 発錆、腐食、損傷の有無を点検する。	
	⑤ 排ガス漏れがないか点検する。	
保温材	⑥ 脱落、損傷の有無を点検する。	
煙突	⑦ 損傷の有無を点検する。	
煙道	⑧ 雨水の浸入の有無を点検する。	
2. 附属品 安全弁	① 漏れの有無を点検する。	
逃し弁	② 損傷、腐食の有無を点検する。	
吹出弁・管	③ 漏れの有無を点検する。 ④ 詰まり、腐食の有無を点検する。	
水面計	⑤ 水位の適否を確認する。 ⑥ 汚損の有無を点検する。	
圧力計	⑦ 指示値を確認する。	
温度計	⑧ 汚損の有無を点検する。	
3. 燃焼状態	① 燃焼状態と炎色を点検する。 ② 起動停止の状態を点検する。	
ファン・モーター	③ 異音、振動、過熱の有無を点検する。	
4. 自動制御版	① ブレーカー・電磁開閉器の過熱 ② 端子の過熱、変色の有無を点検する。 ③ 表示灯を点検する。 ④ フレームアイの機能を点検する。	
水位検出器	⑤ 機能を点検する。	

燃料遮断弁	⑥ 漏れの有無を点検する。	
圧力 SW	⑦ 損傷、変形を点検する。	
	⑧ 運転機能を点検する。	
コントロール	⑨ ダンパーの開閉状況を点検する。	
モーター	⑩ 異音の有無を点検する。	
5. 排煙濃度計	① 指針の適正範囲を確認する。	
	② フィルターガラス、レンズの汚損の有無を点検する。	
	③ パージファンの作動状況を確認する。	
6. 煙突・煙道	① 排ガス漏れの有無を点検する。	
	② 雨水の浸入の有無を点検する。	
	③ 煤の堆積の有無を点検する。	
7. 給水軟水装置	① 錆、腐食の有無を点検する。	
	② 漏れの有無を点検する。	

第4編 建築物環境衛生管理業務

第1章給水及び排水の管理

1. 飲料水設備点検及び清掃業務

(1) 受水槽の点検

ア. 「水道法」、「水道法施行規則」及び「水質基準に関する省令」、「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」、「建築物における衛生的環境の確保に関する法律施行規則」及び同法に基づく厚生労働省告示並びに各地方条例に定めるところによる。

イ. 保守には水槽内部の清掃も含むものとする。

ウ. 受水槽の点検項目及び点検内容は、表4-1による。

エ. 点検周期：2／Y

オ. 対象機器：森松工業㈱製

受水槽 60トン(ステンレス製)

表 4-1 受水槽

点検項目	点検内容	備考
1. 基礎・固定部	① き裂、沈下等の有無を点検する。 ② 固定金具の劣化及び固定ボルトの緩みを点検する。 ③ 架台のさび、腐食等の有無を点検する。 ④ 架台のたわみ及び基礎部隙間の有無を点検する。 ⑤ 基礎部の水平度、不等沈下等を確認する。	
2. 外観の状況 【外部ケーシング】	① 水漏れ及び外面のさび、腐食、損傷等の有無を点検する。 ② 接合金具及び接合ボルトの緩み、腐食等の有無を点検する。 ③ 内・外部補強材の緩み、変形及び内面の腐食、損傷等の有無を点検する。 ④ マンホールの密閉状態及び施錠の良否を点検する。	
3. 付属装置 a. ボールタップ・定水位弁 b. 水面制御及び警報装置 【フロートスイッチ、レベルスイッチ、電極棒】 c. 塩素滅菌器	① 浸水、変形、損傷等の有無及び作動の良否を点検する。 ② 水の供給を停止したとき、水漏れ及び衝撃のないことを確認する。 ① 汚れ、腐食、損傷等の有無を点検する。 ② 水位電極部、パイロット管等の接続部の緩み及び腐食の有無を点検する。 ③ 作動の良否を点検する。 ・ ボール弁及びサイホンブレーカーの作動の良否を点検する。	
4. 配管	① 変形、腐食、損傷等の有無を点検する。 ② 防虫網の詰まり、腐食、損傷等の有無を点検する。	

	③ 配管支持の固定点の位置が適切か確認する。 ④ フレキシブルジョイントにより、配管の振動又は揺れが受水槽本体に伝播していないことを確認する。	
--	--	--

(2) 受水槽の清掃

ア. 清掃の一般事項は、次による。

- 1) 作業は、健康状態の良好な者が行う。
- 2) 作業衣及び使用器具は、受水槽の掃除専用のものとする。又、作業は衛生的に行われるようにする。
- 3) 受水槽内の照明、換気等に注意して事故防止を図る。
- 4) 清掃の周期は、年2回とする。

イ. 清掃作業は、次による。

- 1) 受水槽内の沈殿物質及び浮遊物質、壁面等に付着した物質を除去し洗浄する。なお、壁面等に付着した物質の除去は、受水槽の材質に応じ、適切な方法で行う。
- 2) 洗浄に用いた水は、完全に受水槽外に排除するとともに、受水槽周辺の清掃を行う。
- 3) 清掃終了後、水道引込管内等の停滞水や管内のもらいさび等が受水槽内に流入しないようにする。

ウ. 消毒作業は、次による。

- 1) 清掃終了後、塩素剤を用いて2回以上受水槽内の消毒を行う。
- 2) 消毒薬は、有効塩素50～100mg/l濃度の次亜塩素酸ナトリウム溶液又はこれと同等以上の消毒能力を有する塩素剤を用いる。
- 3) 消毒は、受水槽内の全壁面、床及び天井の下面について、消毒薬を高圧洗浄機等を利用して噴霧により吹付けるか、ブラシ等を利用して行う。
- 4) 消毒に用いた排水は、完全に受水槽外に排除する。
- 5) 消毒終了後は、受水槽内に人の立ち入りを禁止する措置を講じる。

エ. 消毒後の水洗い及び受水槽内への上水の注入は、消毒終了後少なくとも30分以上経過してから行う。

オ. 清掃によって生じた汚泥等の廃棄物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」、「下水道法」等の規定に基づき、適切に処理する。

カ. 受水槽の水張り終了後、給水栓及び受水槽における水について、水質検査及び残留塩素の測定を行う。

項目	基準	検査又は測定方法
色度	5度以下	質検査に関する省令に定める方法又はこれと同等以上の精度を有する方法
濁度	5度以下	
臭気	異常でないこと（但し、消毒によるものを除く。）	
味	異常でないこと（但し、消毒によるものを除く。）	
残留塩素の含有率	遊離残留塩素の場合は0.2mg/l以上	原則としてDPD法

	結合残留塩素の場合は1.5mg/l以上	
--	---------------------	--

2. 水質管理

(1) 残留塩素等の検査

- ア. 定期巡回点検時に給水栓における水に含まれる遊離残留塩素の含有率を測定し、当該含有率が「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」に適合することを確認する。
- イ. 日々の検査については該当施設職員にて行うので、検査結果の集約を行うこと。ただし、検査機器は契約業者より該当施設に貸与し、消耗品を、補充すること(前年度の契約業者により補完されている場合はこの限りにあらず)
- ウ. 残留塩素の測定はD P D法又はこれらと同等以上の精度を有する方法により行う。

(2) 飲料水の水質検査

- ア. 水質基準に関する省令に定める表に揚げる事項について同令別表に定める方法又はこれと同等以上の精度を有する方法で同令表に揚げる基準に適合することを確認する。
- イ. 水質検査は「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」施行規則第4条第1項第3号に定めるところにより行う。
- ウ. 給水栓における水の色、濁り、臭い、味その他の状態により供給する水に異常を認めた場合又は給水にかかる設備について修繕を行った場合はその都度臨時に必要な項目についての水質検査を行う。
- エ. 採水箇所は給水配管の末端部の水栓とする。また、給水系統が複数ある場合には各系統に付き給水配管の末端部の水栓及び水槽とする。

(3) 水質基準

建築物における衛生的環境の確保に関する法律施行規則による水源別の検査項目と水質基準値を表4-2及び表4-3に示す。

表4-2 6ヶ月毎の水質検査

項目		基準値	備考
1	一般細菌	1mlの検水で形成される集落数が100以下	※
2	大腸菌	検出されないこと。	
6	鉛及びその化合物	鉛の量に関して、0.01mg/l以下	
9	亜硝酸態窒素	0.04mg/l以下	
11	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	10mg/l以下	※
32	亜鉛及びその化合物	亜鉛の量に関して、1.0mg/l以下	
34	鉄及びその化合物	鉄の量に関して、0.3mg/l以下	
35	銅及びその化合物	銅の量に関して、1.0mg/l以下	
38	塩化物イオン	200mg/l以下	※
40	蒸発残留物	500mg/l以下	
46	有機物(全有機炭素(TOC)の量) pH値	3mg/l以下	

4 7	PH	5.8以上8.6以下	
4 8	味	異常でないこと。	
4 9	臭気	異常でないこと。	
5 0	色度	五度以下であること。	
5 1	濁度	二度以下であること。	

※印については、水質検査の結果水質基準に適合していた場合には、その次の回の水質検査においては省略しても差し支えない。

表4-3 一年毎の水質検査

項目		基準値	備考
1 0 2	シアン化物イオン及び塩化シアン 塩素	シアンの量に関して、0.01mg/l以下	
1	酸	0.6mg/l以下	
2 2	クロロ酢酸	0.02mg/l以下	
2 3	クロロホルム	0.06mg/l以下	
2 4	クロロ酢酸	0.04mg/l以下	
2 5	ジブromokクロロメタン	0.1mg/l以下	
2 6	臭素酸	0.01mg/l以下	
2 7	総トリハロメタン(クロロホルム、ジブromokクロロメタン、ブromोजクロロメタン及びブromokホルムのそれぞれの濃度の総和)	0.1mg/l以下	
2 8	トリクロロ酢酸	0.2mg/l以下	
2 9	ブromोजクロロメタン	0.03mg/l以下	
3 0	ブromokホルム	0.09mg/l以下	
3 1	ホルムアルデヒド0.08mg/l以下	0.08mg/l以下	

検査時期は、6月1日から9月30日までの間に1回行うものとする。

3. 排水設備の管理業務

「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」等関連法律を遵守し行うこと。

(1) 排水に関する設備の清掃等を6ヶ月以内ごとに一回定期的に行う。

ア. 排水管の清掃作業

排水管、通気管について、内部の異物を除去し、必要に応じ、消毒を行う。

1) 汚水・雑排水管（外部配管含む）及び各会所枳を高圧洗浄機により、洗浄を行う。（2回/年）

2) 外部汚水管を高圧洗浄機により、洗浄を行う。（2回/年）

3) グリストラップ清掃作業（3箇所）（2回/年）

（運搬処分費用を含む）

イ．排水管の点検

- 1) トラップについて、封水深が適切に保たれていることを定期に点検する。
- 2) 排水管及び通気管について、損傷、さび、腐食、詰まり及び漏れの有無を定期に点検し必要に応じ、補修等を行う。

第2章 空気調和機他フィルタ清掃による衛生管理

1. 一般事項

(1) 適用

本章は、機械設備に付随するフィルタ等の清掃に関する業務に適用する。

(2) 業務目的

本業務は、設備内の空調に関する衛生管理を保持し、各設備機器の所定の機能を維持継続させることを目的とする。

2. 空気調和機他フィルタ清掃業務

(1) 対象機器及び清掃内容は、表4-4による。

(2) 清掃周期：6M

(3) 対象機器

①外気処理空調機（AHU 1～AHU 5）、②給気ファン（FS-1,FS-2）、③給気口（VHS（F付））フィルタ、④全熱交換器（HEA）、⑤外部ガラリ・防虫網、⑥空冷電気式パッケージエアコン（EHP）フィルタ、⑦ガスヒートポンプエアコン（GHP）室内機フィルタ⑧フードグリスフィルタ

表4-4 空気調和機他

対象機器		清掃内容	備考
①	外気処理空調機（AHU 1～AHU 5）	<ul style="list-style-type: none"> ・空調機フード部の金網部の除塵及び清掃を行う。 ・プレフィルタを本体より取外し、付着した汚れを洗浄機等を使用し除去する。又、汚れが取れない場合には、洗剤等を使用する。 ・プレフィルタが完全に乾燥後、取付を行う。 	AHU 1 ～ AHU5
②	給気ファン・ユニット （FS-1～FS-2） （FU-1～FU-2）	<ul style="list-style-type: none"> ・空調機フード部の金網部の除塵及び清掃を行う。 ・プレフィルタを本体より取外し、付着した汚れを洗浄機等を使用し除去する。又、汚れが取れない場合には、洗剤等を使用する。 ・プレフィルタが完全に乾燥後、取付を行う。 	FS-1～2 FU-1～2
③	給気口（VHS（F付））	<ul style="list-style-type: none"> ・給気口ガラリを取外し、内部フィルタの付着した汚れを掃除機等を使用し除去する。又、汚れが酷い場合には、洗剤を使用する。 ・フィルタの清掃後、取付を行い、ガラリの取付を行う。 	吸気口 （1階…26台、 2階…3台）
④	全熱交換器（HEA）	<ul style="list-style-type: none"> ・本体よりフィルタを取り外し、付着した汚れを掃除機・洗浄機を使用し除去する。 また、汚れが酷い場合には、洗剤を使用する。 ・フィルタ清掃後、取付を行う。 	全熱交換器 （1階…1台、 2階…7台）

⑤	外部ガラリ・防虫網	<ul style="list-style-type: none"> ・外部給気ガラリを取外し、内部の防虫網のブラシ・掃除機を使用して清掃を行う。 ・清掃後、外部ガラリの取付を行う。 	外部給気ガラリ (1階…6台、 2階…6台)
⑥	空冷電気式 パッケージエアコン	<ul style="list-style-type: none"> ・本体よりフィルタを取り外し、付着した汚れを掃除機・洗浄機を使用し除去する。また、汚れが酷い場合には、洗剤を使用する。 ・フィルタ清掃後、取付を行う。 	EHP2 台 (1 階和え物室)
⑦	ガスヒートポンプ エアコン (GHP) 室内機	<ul style="list-style-type: none"> ・本体よりフィルタを取り外し、付着した汚れを掃除機・洗浄機を使用し除去する。 また、汚れが酷い場合には、洗剤を使用する。 ・フィルタ清掃後、取付を行う。 	GHP 63 台
⑧	フードグリス フィルタ	<ul style="list-style-type: none"> ・グリスフィルターを取外し、アルカリ性専用洗剤にて汚れの除去を行う。 ・乾燥後、取付を行う。(フード清掃及びダクト清掃を除く) 	グリスフィルター (88 枚)

(4) 清掃箇所・数量・及び時期は、表4-5による。

表4-5 清掃箇所・数量・及び時期

番号	機器名	業務内容及び場所	台数	回数・時期など
①	外気処理空調機 (AHU1・2・3・4・5)	プレフィルター清掃 屋上	5台	2回 夏季及び春季休業期間
		金網部清掃 屋上	5台	2回 夏季及び春季休業期間
②	給気ファンユニット (FS-1・2、Fu-1・2)	プレフィルター清掃 屋上	2台	2回 夏季及び春季休業期間
		金網部清掃 屋上	2台	2回 夏季及び春季休業期間
③	給気口フィルター	フィルター清掃 1階	26台	2回 夏季及び春季休業期間
		フィルター清掃 2階	3台	2回 夏季及び春季休業期間
④	全熱交換機 (空調換気扇)	フィルター清掃 1階	1台	2回 夏季及び春季休業期間
		フィルター清掃 2階	7台	2回 夏季及び春季休業期間
⑤	外部 (給気) ガラリ・防虫網	ガラリ・防虫網清掃 1階	6台	2回 夏季及び春季休業期間
		ガラリ・防虫網清掃 2階	6台	2回 夏季及び春季休業期間 (高所作業あり)
⑥	空冷電気式パッケージ エアコン室内機	フィルター清掃 1 階和え物室	2台	2回 夏季及び春季休業期間

⑦	GHPガスヒートポンプエアコン室内機	センター内 各所	63台	2回 夏季及び春季休業期間
⑧	フードグリスフィルター	フード① 焼物・揚げ物・蒸し物調理室	4枚	2回 夏季及び春季休業期間
		フード② 焼物・揚げ物・蒸し物調理室	8枚	2回 夏季及び春季休業期間
		フード③ 焼物・揚げ物・蒸し物調理室	8枚	2回 夏季及び春季休業期間
		フード④ 焼物・揚げ物・蒸し物調理室	18枚	2回 夏季及び春季休業期間
		フード⑤ 煮炊き調理室	31枚	2回 夏季及び春季休業期間
		フード⑥ 煮炊き調理室	12枚	2回 夏季及び春季休業期間
		フード⑦ 煮炊き調理室	4枚	2回 夏季及び春季休業期間
		フード⑧ 特別調理室	2枚	2回 夏季及び春季休業期間
		フード⑨ 特別調理室	2枚	2回 夏季及び春季休業期間
		計	88枚	2回 夏季及び春季休業期間

※ 機器等の規格及び配置図は別紙機器図面の通りとする。

葛城市学校給食センター 機器設備仕様

機器設備仕様明細

設備機器名称	メーカー	機種等	記号
空冷電気式ヒートポンプエアコン	東芝キャリア㈱	型式 RCAC511D 2セット 東芝キャリア㈱製 中温用空冷パッケージエアコン 天吊露出型	EHP-1
吸収式冷温水発生器	川重冷熱工業㈱	型式 Σ TUJ-250AQ6C 1台 川崎冷熱工業㈱製 排熱投入型吸収式冷温水機(排熱温水標準型・屋外設置)	RH-1
開放式冷却塔	荏原冷熱システム㈱	型式 SDW-U250ASD 1台 荏原冷熱システム㈱製 低騒音型角形開放式冷却塔3φ-200 5.5×2 2階 屋上	CT-1
開放式冷却水処理装置保守点検	東西化学産業㈱	型式 薬注装置サワコンSY-1B-C 薬注ポンプTS-T11F-VC 各1台	
空冷ガスヒートポンプエアコン	大和ガス (ヤンマーエネルギーシステム㈱)	天井カセット型室内機(4方向吹出) 壁掛型室内機 天井カセット型室内機(1方向吹出) 他63台 ヤンマーエネルギーシステム㈱製 YNZP224H1NB 1台、YNZP355H1NB 2台、YNZP450J-NB 1台、YNZP560J-NB 3台 YWZP450J-NB 2台、YWZP710J-NB 4台、YWZP560J-NB 2台	GHP-1～11
ガス・コージェネレーション	大和ガス (ヤンマーエネルギーシステム㈱)	型式 OP35VCZ-TN 2台 ヤンマーエネルギーシステム㈱製 屋外設置停電対応型マイクロコージェネレーションユニット	CGS-1 CGS-2
外気処理空調機(空調機 点検+整備費)	㈱クボタ	型式 MPV35RT MPV12RT MPV47RT MPV6RT MPV21RT 各1台 (株)クボタ製 垂直型外気処理空調機(屋外設置)	AHU1～5
空調ファン送風機	テラル㈱	①1階 下処理系統 屋外床置型 片吸込シロッコファン #3×7,040CMH×550Pa ②1階 洗浄室系統 屋外床置型 片吸込シロッコファン #5×21,030CMH×550Pa 排気ファン ③1階 下処理系統 屋外床置型 片吸込シロッコファン #3×6,590CMH×300Pa ④1階 焼物・揚物蒸し物調理室系統 屋外床置型 片吸込シロッコファン(片持型厨房用) #4 1/2×25,500CMH×450Pa ⑤1階 上処理系統 屋外床置型 片吸込シロッコファン(片持型厨房用) #3×8,970CMH×450Pa ⑥1階 煮炊調理系統 屋外床置型 片吸込シロッコファン(片持型厨房用) #6×38,120CMH×550Pa ⑦1階 和え物系統 屋外床置型 片吸込シロッコファン #2×3,500CMH×300Pa ⑧1階 コンテナP系統 屋外床置型 片吸込シロッコファン(片持型厨房用) #4×16,940CMH×350Pa ⑨1階 洗浄室系統 屋外床置型 片吸込シロッコファン(片持型厨房用) #4 1/2×19,670CMH×400Pa	FS-1 FS-2 FE-1 FE-2 FE-3 FE-4 FE-5 FE-6 FE-7
空調ファンポンプ	テラル㈱	①冷温水ポンプ 型式SJ4-125×100K611 片吸込渦巻ポンプ(屋外設置) 1台 ②冷却水ポンプ 型式SJ5-150×125K615 片吸込渦巻ポンプ(屋外設置) 1台 ③排熱回収ポンプ 型式SVM402-61.5 ライン型ポンプ(屋外設置) ※耐熱温度90℃ 2台 ④タンク一体型給水ポンプ(補給水、加湿系統) 型式 RMB5-25THP5-V150S 小型タンク一体型加圧給水ポンプユニット 1台	PCH-1 PCD-1 PCG-1(2台) WT-1
自動制御設備	アズビル㈱	別紙	
全熱交換器	三菱電機㈱	①空気換気扇 型式LGH-N50CX 1台 ②空気換気扇 型式LGH-N65RX 2台 ③空気換気扇 型式LGH-N50CX ④空気換気扇 型式LGH-N25CX 1台 ⑤空気換気扇 型式LGH50-N50CX 1台 ⑥空気換気扇 型式LGH-N35CX 1台 ⑦空気換気扇 型式LGH-100RX	HEX1～7
換気設備	—		
厨房フード用グリスフィルター他フィルター	クラコ	型式 LL-403×8台、LL502×1台、LL302×5台(株)、LL503×2台、LL-40×1台、LL-30×1台クラコ製	
受水槽	森松工業㈱	型式 4.5m×7.5m×3.0mH 60m ³ S U S製一体型 受水槽(ポンプ室一体型)2槽式 1台 森松工業(株)	WT-1
衛生設備内ポンプ(加圧給水・消火用・水中)	テラル㈱	①加圧給水ポンプ 型式NX-100VFC502-3.7Tx3推定末端圧力一定型インバータ制御3/3台並列運転 1台、	PW-1
設備内ポンプ(・消火用・水中)	テラル㈱	①消火用ポンプ 型式NKP-KB-NXF50×50-65.5 消火ポンプユニット(消防認定品)1台 ②水中ポンプ 型式40PV-6.25 樹脂製セミボルテックス排水水中ポンプ 4台 テラル(株)製	FP-1 PD-1
蒸気ボイラー	㈱ヒラカワ	型式 CG-1500 貫流式蒸気ボイラー比例制御 2台 (株)ヒラカワ製	SB-1
貯湯槽(膨張タンク・環水槽等)	森松工業㈱	型式 TVW-1 ストレージタンク 1400Φ×2,448mmH 森松工業製 1基	

(別紙)

保守対象機器表 (自動制御機器)

機 器 名	型 番	個 数	備 考
A. 中央管制装置(スマートスクリーン)			
(1)セントラルシステム (総合保守)			
メインコンソールユニット	MCU	1 台	
B. 熱源・ローカル一般機器			
(1)熱源廻り制御 1セット (基本保守)			
配管温度検出器	TY7830B	2 台	
(2)冷却塔制御 1セット (基本保守)			
挿入形温度センサ	TY7803Z	4 台	
デジタル指示調節器	R36	2 台	
電動バタフライ弁	DN3	1 台	
(3)外調機制御 5セット (簡易保守)			
AHU-1 焼物・揚物・蒸し物調理室			
AHU-2 上処理			
AHU-3 煮炊室・調理室			
AHU-4 和え物室			
AHU-5 コンテナプール			
挿入形温度センサ	TY7803Z	10 台	
微差圧スイッチ	PYY-CL13	5 台	
Infilex GC	WY5111	5 台	
オペレータパネル	QY5100W	5 台	
直結形タンパ操作器	MY6050A	5 台	
フランジ型電動三方弁	VY5410F	5 台	
(4)コージェネ排熱利用制御・貯湯槽制御 1セット (簡易保守)			
挿入形温度調節器	TY6800Z	1 台	
配管温度検出器	TY7830B	3 台	
Infilex GC	WY5111	1 台	
オペレータパネル	QY5100W	1 台	
電動式バタフライ弁	VY69	4 台	
フランジ型電動三方弁	VY5410F	1 台	
遮断弁	PMK2	1 台	
アクティバル電動二方弁	VY5115K	1 台	
(5)ボイラー廻り制御 1セット (基本保守)			
対象機器なし			
(6)還水槽制御 1セット			

(簡易保守)			
蓄熱槽用温度検出器	TY8301A	1 台	
液面警報制御装置	GYE-SL-21	1 台	
電動ボール弁	VY6300B	1 台	
(7)減温水槽制御 4セット (簡易保守)			
蓄熱槽用温度検出器	TY8301A	4 台	
デジタル指示調節器	R36	4 台	
電動ボール弁	VY6300B	1 台	
(8)膨張タンク監視 3セット (簡易保守)			
圧力発信器	JTG	3 台	
デジタル指示調節器	R36	3 台	
DC24V電源	RYY792D	3 台	
(9)フィルター目詰まり警報監視 2セット (簡易保守)			
微差圧スイッチ	PYY-604	2 台	

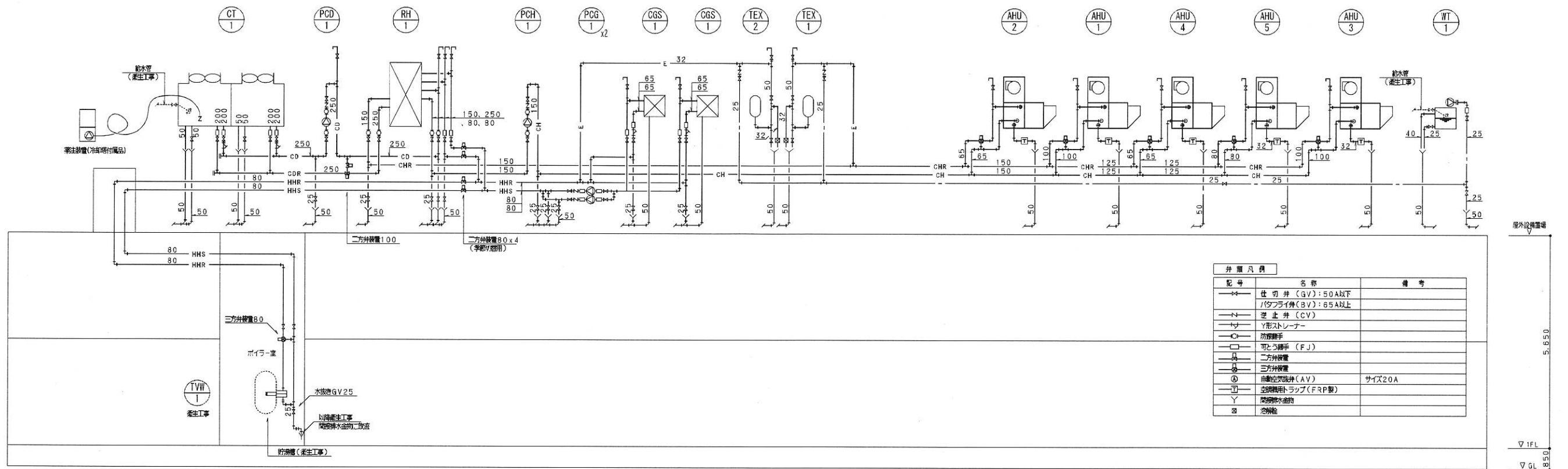
記 号	名 称	機 器 仕 様		電源電圧 φ-V	消費電力 kW	設置場所	台数	備 考
GHP-1	空冷ガスエンジン	型 式	冷暖切替型屋外機 冷媒：R410A	3φ-200	(冷)0.99	2階 屋上	1	ヤマエビル・システム㈱
	ヒートポンプエアコン	能力	冷房： 56.0 kW(JIS) 暖房： 63.0 kW(JIS)		(暖)0.91			YNZP560J
	(ビル用マルチ)	ガスエンジン	12.4 kW					
		燃料消費量	43.3 kW (都市ガス13A)					
		送風機	0.37 kW×2					
		付属品	スプリング防護架台、分岐管、ドレンホース、他標準付属品共					
GHP-1-1	空冷ガスエンジン	型 式	天井カセット型室内機 (4方向吹出)	1φ-200	(冷)0.042	1階	1	室内設定条件 A
	ヒートポンプエアコン	能力	冷房： 4.5 kW(JIS) 暖房： 5.0 kW(JIS)		(暖)0.034	荷受室 (魚肉)		ヤマエビル・システム㈱
	(ビル用マルチ)	送風機	0.056 kW					YZCP45MC
		付属品	ドレンアップメカ、標準フィルター、化粧パネル、リモコン、 他標準付属品共					
GHP-1-2	空冷ガスエンジン	型 式	壁掛型室内機	1φ-200	(冷)0.027	1階	1	室内設定条件 A
	ヒートポンプエアコン	能力	冷房： 2.8 kW(JIS) 暖房： 3.2 kW(JIS)		(暖)0.027	廃材庫		ヤマエビル・システム㈱
	(ビル用マルチ)	送風機	0.04 kW					YZAP28W
		付属品	ドレンアップメカ、標準フィルター、リモコン、 他標準付属品共					
GHP-1-3	空冷ガスエンジン	型 式	天井カセット型室内機 (4方向吹出)	1φ-200	(冷)0.092	1階	1	室内設定条件 A
	ヒートポンプエアコン	能力	冷房： 9.0 kW(JIS) 暖房： 10.0 kW(JIS)		(暖)0.075	器具・ カート洗浄室 (1)		ヤマエビル・システム㈱
	(ビル用マルチ)	送風機	0.056 kW					YZCP90MC
		付属品	ドレンアップメカ、標準フィルター、化粧パネル、リモコン、 他標準付属品共					
GHP-1-4	空冷ガスエンジン	型 式	天井カセット型室内機 (4方向吹出)	1φ-200	(冷)0.05	1階	1	室内設定条件 A
	ヒートポンプエアコン	能力	冷房： 5.6 kW(JIS) 暖房： 6.3 kW(JIS)		(暖)0.038	荷受室 (野菜)		ヤマエビル・システム㈱
	(ビル用マルチ)	送風機	0.056 kW					YZCP56MC
		付属品	ドレンアップメカ、標準フィルター、化粧パネル、リモコン、 他標準付属品共					
GHP-1-5	空冷ガスエンジン	型 式	天井カセット型室内機 (4方向吹出)	1φ-200	(冷)0.042	1階	3	室内設定条件 A
	ヒートポンプエアコン	能力	冷房： 4.5 kW(JIS) 暖房： 5.0 kW(JIS)		(暖)0.034	検収室		ヤマエビル・システム㈱
	(ビル用マルチ)	送風機	0.056 kW					YZCP45MC
		付属品	ドレンアップメカ、標準フィルター、化粧パネル、リモコン、 他標準付属品共					
GHP-2	空冷ガスエンジン	型 式	冷暖切替型屋外機 冷媒：R410A	3φ-200	(冷)0.99	2階 屋上	1	ヤマエビル・システム㈱
	ヒートポンプエアコン	能力	冷房： 56.0 kW(JIS) 暖房： 63.0 kW(JIS)		(暖)0.91			YNZP560J
	(ビル用マルチ)	ガスエンジン	12.4 kW					
		燃料消費量	43.3 kW (都市ガス13A)					
		送風機	0.37 kW×2					
		付属品	スプリング防護架台、分岐管、ドレンホース、他標準付属品共					
GHP-2-1	空冷ガスエンジン	型 式	天井カセット型室内機 (4方向吹出)	1φ-200	(冷)0.208	1階	1	室内設定条件 A
	ヒートポンプエアコン	能力	冷房： 14.0 kW(JIS) 暖房： 16.0 kW(JIS)		(暖)0.200	魚肉下処理室		ヤマエビル・システム㈱
	(ビル用マルチ)	送風機	0.12 kW					YZCP140MC
		付属品	ドレンアップメカ、標準フィルター、化粧パネル、リモコン、 他標準付属品共					
GHP-2-2	空冷ガスエンジン	型 式	天井カセット型室内機 (1方向吹出)	1φ-200	(冷)0.051	1階	1	室内設定条件 A
	ヒートポンプエアコン	能力	冷房： 2.8 kW(JIS) 暖房： 3.2 kW(JIS)		(暖)0.051	食品庫		ヤマエビル・システム㈱
	(ビル用マルチ)	送風機	0.09 kW					YZKP28B
		付属品	ドレンアップメカ、標準フィルター、化粧パネル、リモコン、 他標準付属品共					
GHP-2-3	空冷ガスエンジン	型 式	天井カセット型室内機 (4方向吹出)	1φ-200	(冷)0.042	1階	1	室内設定条件 A
	ヒートポンプエアコン	能力	冷房： 4.5 kW(JIS) 暖房： 5.0 kW(JIS)		(暖)0.034	仕分室		ヤマエビル・システム㈱
	(ビル用マルチ)	送風機	0.056 kW					YZCP45MC
		付属品	ドレンアップメカ、標準フィルター、化粧パネル、リモコン、 他標準付属品共					

＜注記＞

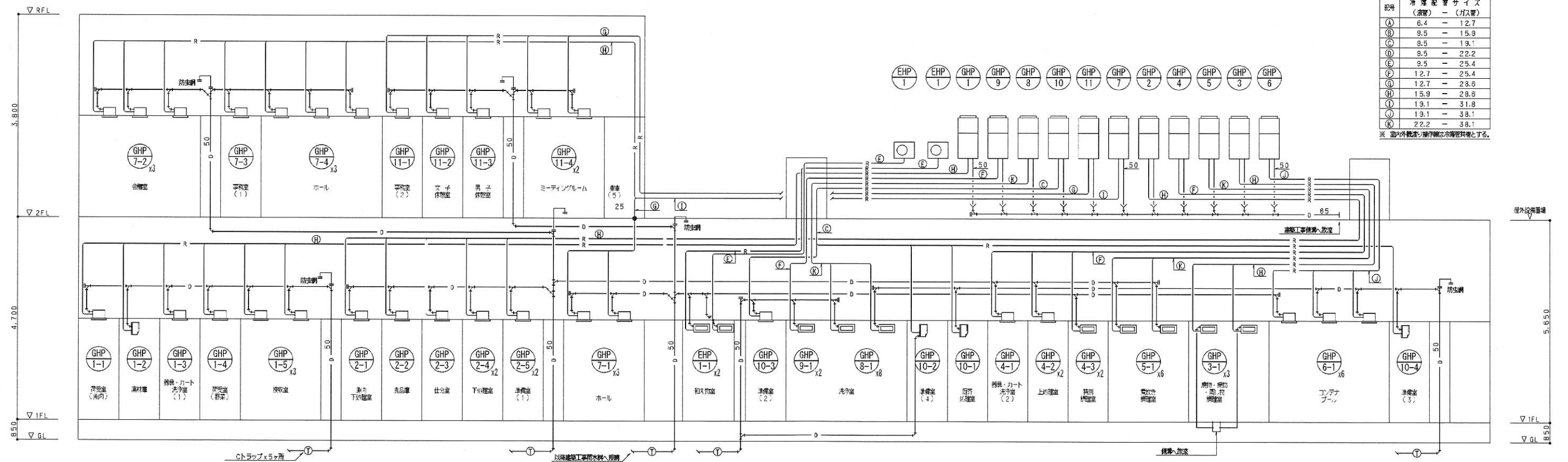
- 1)消費電力、消費ガス消費量は参考値とする。
- 2)室外機で2台連結型のものは、1台当たりの数値を表す。
- 3)ガスヒートポンプ室外機は、標準タイプとする。
- 4)室外機ユニット内及び室内機一室外機間の冷媒管共巻配線は空調工事とする。

記 号	名 称	機 器 仕 様		電源電圧 V	消費電力 kW	設置場所	台数	備 考
GHP-2-4	空冷ガスエンジン	型 式	天井カセット型室内機 (4方向吹出)	1φ-200	(冷)0.092	1階	2	室内設定条件A
	ヒートポンプエアコン	能力	冷房: 9.0 kW(JIS) 暖房: 10.0 kW(JIS)		(暖)0.075	下処理室		ヤマテ環境システム機
	(ビル用マルチ)	送風機	0.056 kW					YZCP90MC
		付属品	ドレンアップメカ、標準フィルター、化粧パネル、リモコン、					
			他標準付属品共					
GHP-2-5	空冷ガスエンジン	型 式	天井カセット型室内機 (4方向吹出)	1φ-200	(冷)0.042	1階	2	室内設定条件A
	ヒートポンプエアコン	能力	冷房: 4.5 kW(JIS) 暖房: 5.0 kW(JIS)		(暖)0.034	準備室(1)		ヤマテ環境システム機
	(ビル用マルチ)	送風機	0.056 kW					YZCP45MC
		付属品	ドレンアップメカ、標準フィルター、化粧パネル、リモコン、					
			他標準付属品共					
GHP-3	空冷ガスエンジン	型 式	冷暖切替型屋外機 冷媒: R410A	3φ-200	(冷)0.99	2階 屋上	1	ヤマテ環境システム機
	ヒートポンプエアコン	能力	冷房: 56.0 kW(JIS) 暖房: 63.0 kW(JIS)		(暖)0.91			YNZP560J
	(ビル用マルチ)	ガスエンジン	12.4 kW					
		燃料消費量	43.3 kW (都市ガス13A)					
		送風機	0.37 kW×2					
		付属品	スプリング防振架台、分岐管、ドレンホース、他標準付属品共					
GHP-3-1	空冷ガスエンジン	型 式	天井露出型厨房用室内機 (SUS製)	1φ-200	(冷)0.24	1階	3	室内設定条件B
	ヒートポンプエアコン	能力	冷房: 14.0 kW(JIS) 暖房: 16.0 kW(JIS)		(暖)0.226	換物・揚物・蒸し物		ヤマテ環境システム機
	(ビル用マルチ)	送風機	0.13 kW			調理室		YZHTP140M
		付属品	ドレンアップメカ、オイルガードフィルター、リモコン、					
			他標準付属品共					
GHP-4	空冷ガスエンジン	型 式	冷暖切替型屋外機 冷媒: R410A	3φ-200	(冷)0.72	2階 屋上	1	ヤマテ環境システム機
	ヒートポンプエアコン	能力	冷房: 35.5 kW(JIS) 暖房: 40.0 kW(JIS)		(暖)0.66			YNZP355H1
	(ビル用マルチ)	ガスエンジン	7.9 kW					
		燃料消費量	26.2 kW (都市ガス13A)					
		送風機	0.37 kW×2					
		付属品	スプリング防振架台、分岐管、ドレンホース、他標準付属品共					
GHP-4-1	空冷ガスエンジン	型 式	天井カセット型室内機 (4方向吹出)	1φ-200	(冷)0.063	1階	1	室内設定条件B
	ヒートポンプエアコン	能力	冷房: 7.1 kW(JIS) 暖房: 8.0 kW(JIS)		(暖)0.053	器具・		ヤマテ環境システム機
	(ビル用マルチ)	送風機	0.056 kW			カート洗浄室(2)		YZCP71MC
		付属品	ドレンアップメカ、標準フィルター、化粧パネル、リモコン、					
			他標準付属品共					
GHP-4-2	空冷ガスエンジン	型 式	天井カセット型室内機 (4方向吹出)	1φ-200	(冷)0.042	1階	2	室内設定条件B
	ヒートポンプエアコン	能力	冷房: 4.5 kW(JIS) 暖房: 5.0 kW(JIS)		(暖)0.034	上処理室		ヤマテ環境システム機
	(ビル用マルチ)	送風機	0.056 kW					YZCP45MC
		付属品	ドレンアップメカ、標準フィルター、化粧パネル、リモコン、					
			他標準付属品共					
GHP-4-3	空冷ガスエンジン	型 式	天井露出型厨房用室内機 (SUS製)	1φ-200	(冷)0.13	1階	2	室内設定条件B
	ヒートポンプエアコン	能力	冷房: 8.0 kW(JIS) 暖房: 9.0 kW(JIS)		(暖)0.12	特別調理室		ヤマテ環境システム機
	(ビル用マルチ)	送風機	0.06 kW					YZHTP80M
		付属品	ドレンアップメカ、オイルガードフィルター、リモコン、					
			他標準付属品共					
GHP-5	空冷ガスエンジン	型 式	冷暖切替型屋外機 (2台連結型) 冷媒: R410A	3φ-200	(冷)1.16	2階 屋上	2	※2台連結型×1組
	ヒートポンプエアコン	能力	冷房: 71.0 kW(JIS) 暖房: 80.0 kW(JIS)		(暖)1.02			ヤマテ環境システム機
	(ビル用マルチ)	ガスエンジン	15.7 kW					YNZP710J
		燃料消費量	51.2 kW (都市ガス13A)					
		送風機	0.37 kW×3					
		付属品	スプリング防振架台、分岐管、ドレンホース、他標準付属品共					
GHP-5-1	空冷ガスエンジン	型 式	天井露出型厨房用室内機 (SUS製)	1φ-200	(冷)0.24	1階	6	室内設定条件B
	ヒートポンプエアコン	能力	冷房: 14.0 kW(JIS) 暖房: 16.0 kW(JIS)		(暖)0.226	煮炊調理室		ヤマテ環境システム機
	(ビル用マルチ)	送風機	0.13 kW					YZHTP140M
		付属品	ドレンアップメカ、オイルガードフィルター、リモコン、					
			他標準付属品共					

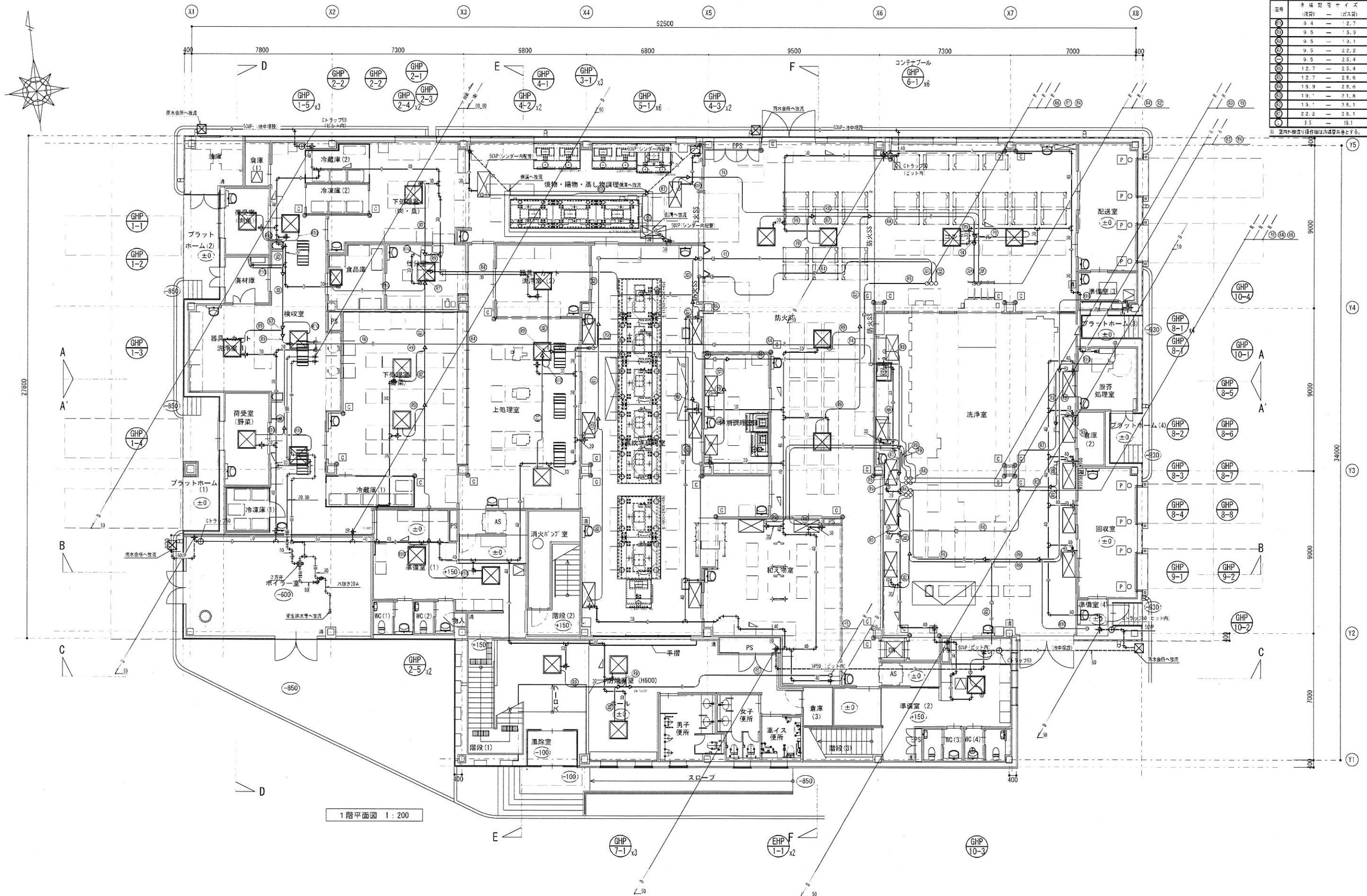
[illegible]



空調設備系統図 (熱源)



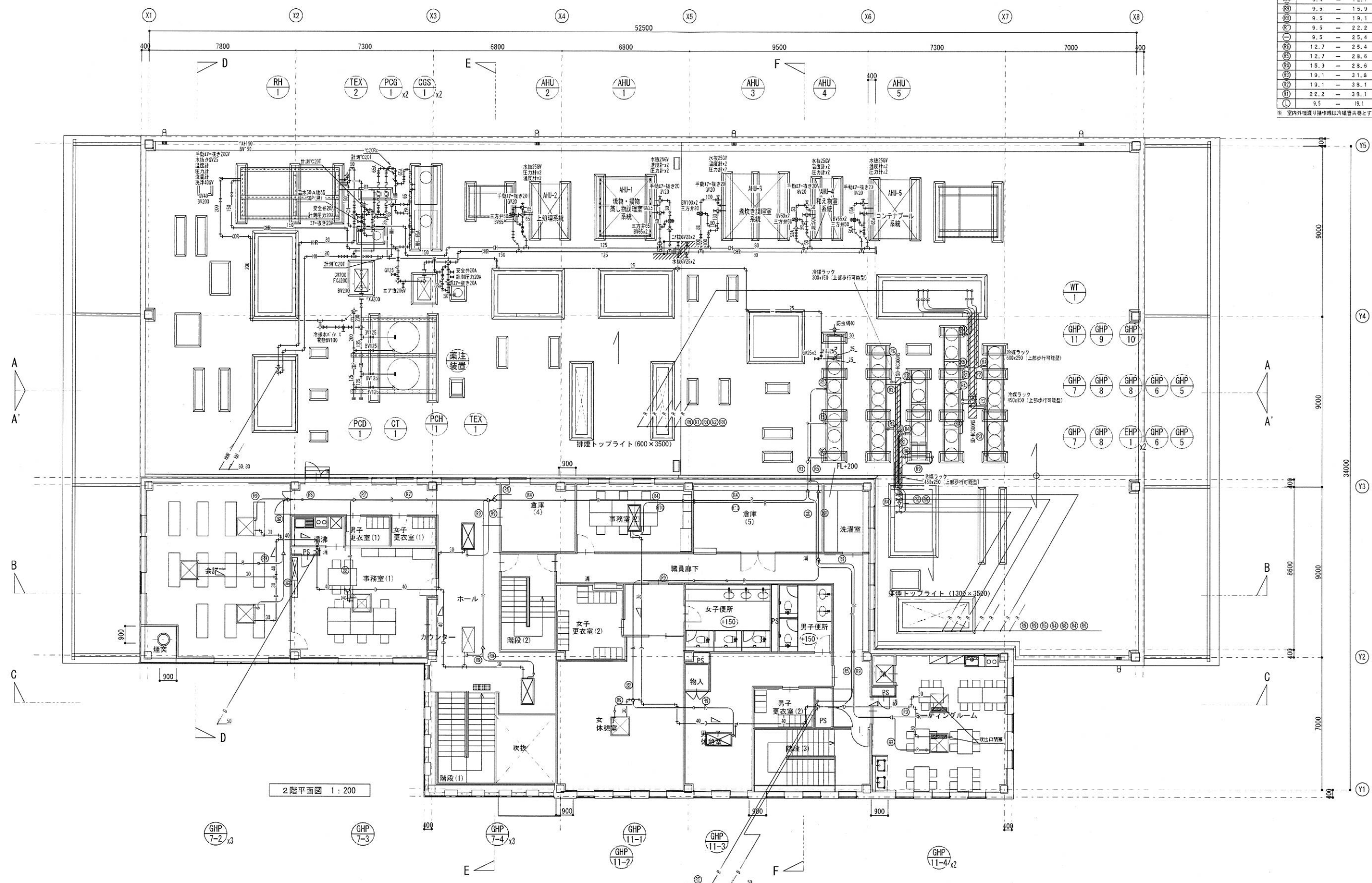
空調設備系統図 (冷媒・ドレン)




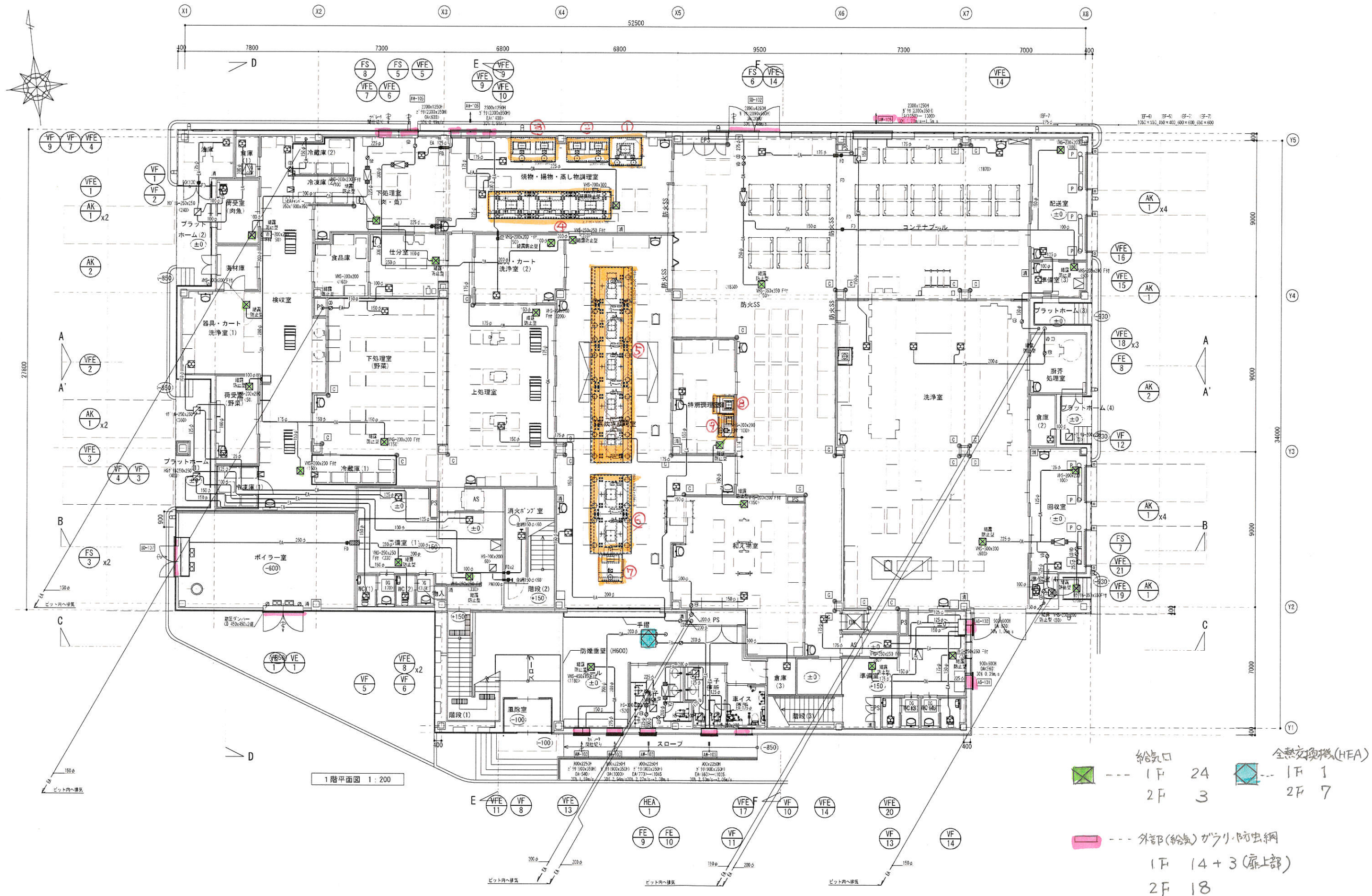
記号	機種	容量	サイズ
①	①	①	①
②	②	②	②
③	③	③	③
④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤
⑥	⑥	⑥	⑥
⑦	⑦	⑦	⑦
⑧	⑧	⑧	⑧
⑨	⑨	⑨	⑨
⑩	⑩	⑩	⑩
⑪	⑪	⑪	⑪
⑫	⑫	⑫	⑫
⑬	⑬	⑬	⑬
⑭	⑭	⑭	⑭
⑮	⑮	⑮	⑮
⑯	⑯	⑯	⑯
⑰	⑰	⑰	⑰
⑱	⑱	⑱	⑱
⑲	⑲	⑲	⑲
⑳	⑳	⑳	⑳
㉑	㉑	㉑	㉑
㉒	㉒	㉒	㉒
㉓	㉓	㉓	㉓
㉔	㉔	㉔	㉔
㉕	㉕	㉕	㉕
㉖	㉖	㉖	㉖
㉗	㉗	㉗	㉗
㉘	㉘	㉘	㉘
㉙	㉙	㉙	㉙
㉚	㉚	㉚	㉚
㉛	㉛	㉛	㉛
㉜	㉜	㉜	㉜
㉝	㉝	㉝	㉝
㉞	㉞	㉞	㉞
㉟	㉟	㉟	㉟
㊱	㊱	㊱	㊱
㊲	㊲	㊲	㊲
㊳	㊳	㊳	㊳
㊴	㊴	㊴	㊴
㊵	㊵	㊵	㊵
㊶	㊶	㊶	㊶
㊷	㊷	㊷	㊷
㊸	㊸	㊸	㊸
㊹	㊹	㊹	㊹
㊺	㊺	㊺	㊺
㊻	㊻	㊻	㊻
㊼	㊼	㊼	㊼
㊽	㊽	㊽	㊽
㊾	㊾	㊾	㊾
㊿	㊿	㊿	㊿

記号	冷媒配管サイズ (管径)	冷媒配管サイズ (長さ)
R10	6.4	12.7
R9	9.5	15.9
R8	9.5	19.1
R7	9.5	22.2
R6	9.5	25.4
R5	12.7	25.4
R4	12.7	28.6
R3	15.9	28.6
R2	19.1	31.8
R1	19.1	38.1
R0	22.2	38.1
R	9.5	19.1

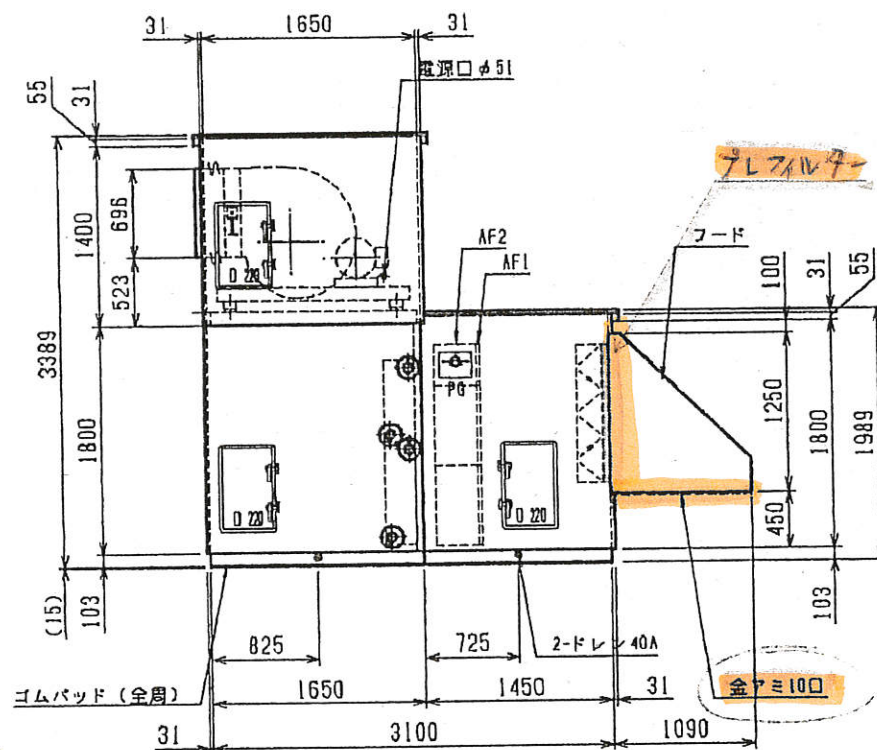
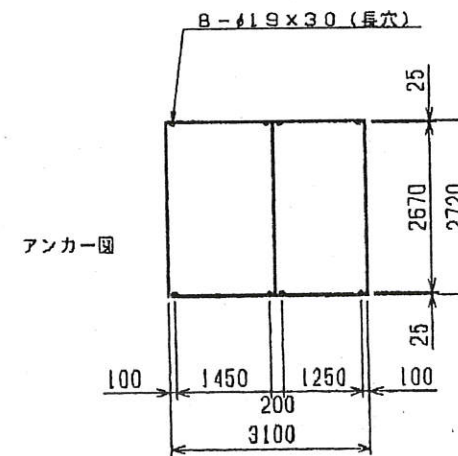
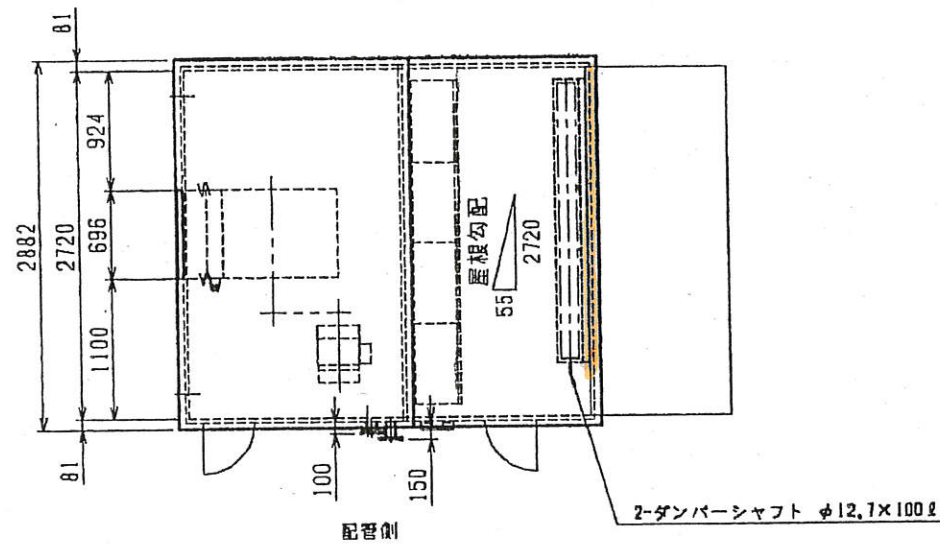
※ 室内外配管は冷媒管とす。



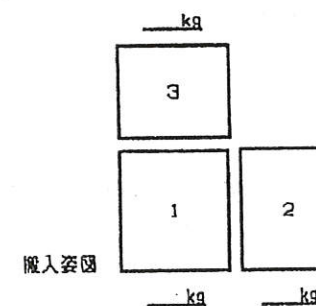
竣工年月日	2015.3.31	設計者	株式会社 大建設	DATE	2015.03.31	PROJ. NO.	0-2013-084	PROJ. TITLE	葛城市学校給食センター建設工事	M
監理者印		施工者印		CHECK				DRW. TITLE	空気調和設備 2階平面図-1 (配管)	DRW. NO.
								SCALE	1:100 (A1) 1:200 (A3)	015



竣工年月日	2015.3.31	竣工場所	葛城市学校給食センター建設工事	図面番号	M
監理者印		設計者	大建設設計	図面タイトル	空調設備 1階平面図-1 (ダクト)
施工者印		設計者	大建設設計	スケール	1:100 (A1) 1:200 (A3)
		設計者	大建設設計	図面番号	019

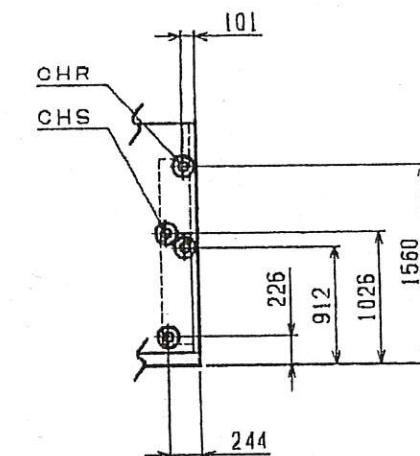


アンカー図



搬入姿図

仕様一覧	
風量	26000m³/h
全静圧/機外静圧	634/300Pa
ファン	FC22A 手動スクロールダンパー
回転数	770rpm
電動機 3相 200V 60Hz	11kW×4P 全開外扇型
コイル形式/サイズ	W形 4列 80S-36/54×96
冷房能力	211.8kW
冷水温度/水量	入口 7℃ 出口 14℃ / 434ℓ/min
暖房能力	196.4kW
温水温度/水量	入口 55℃ 出口 48.7℃ / 434ℓ/min
防振装置	スプリング防振+ゴムパット
運転質量	kg
特記事項	平成22年版公共建築工事標準仕様 各セクション取付後、セクション間の 接合部はシリコンシールを施してください



記号	名称	サイズ
CHS	冷温水入口	2-65A
CHR	冷温水出口	2-65A

配管位置図

PG	差圧計 (防雨カバー付)	レンジ (0~500Pa)	1
D220	気密型点検扉	400×650	3
AF2	中性能フィルター (NBS-65%)	F×8 HH×4	
AF1	プレフィルター (AF1-80%)		
品番	部品名称	仕様	数量

△	xxxx	製図	担当	検図
△	xxxx	清水(晶)	加藤	
△	xxxx			
改訂	内容	日付	作成年月日: 2014.7.9	

140704008 Ver.2

株式会社クボタ
クボタ空調株式会社

物件名 葛城市学校給食センター建設工事

図番 YAE9311-000

型式

MPV-35RT

オーダーNo

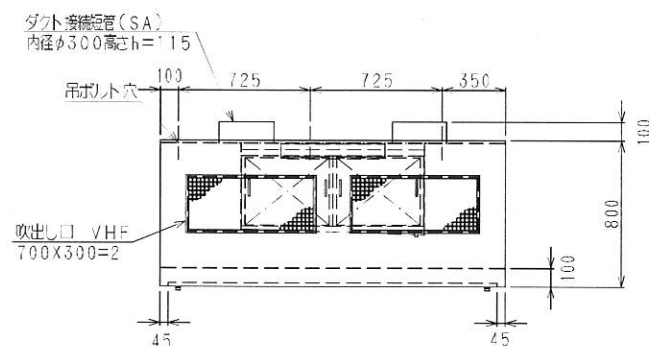
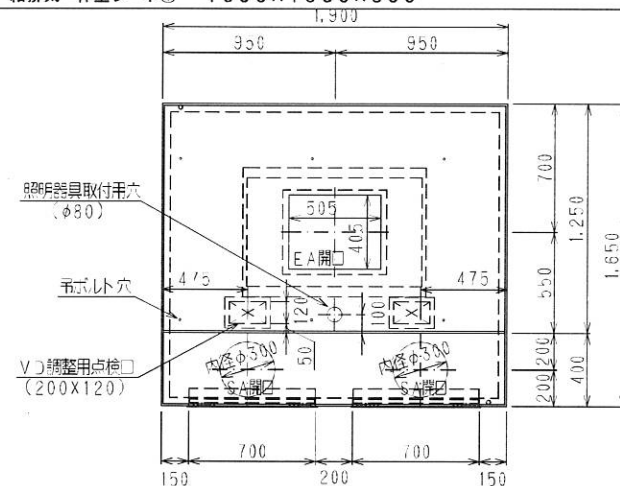
台数

1

STD

様式番号: 設技Y4210 設定日: 2005. 6.20 初版

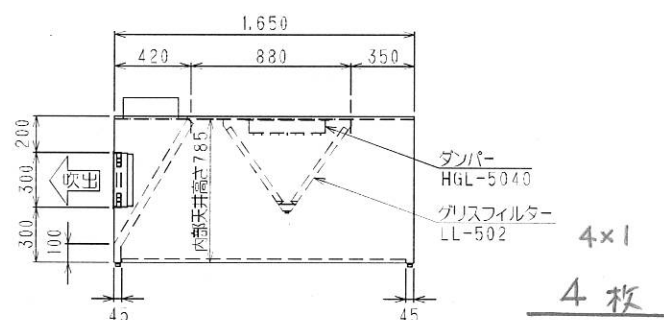
給排気一体型フード① 1900×1650×800



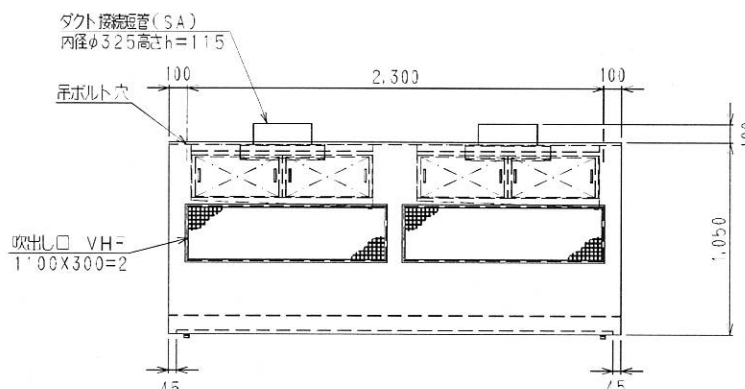
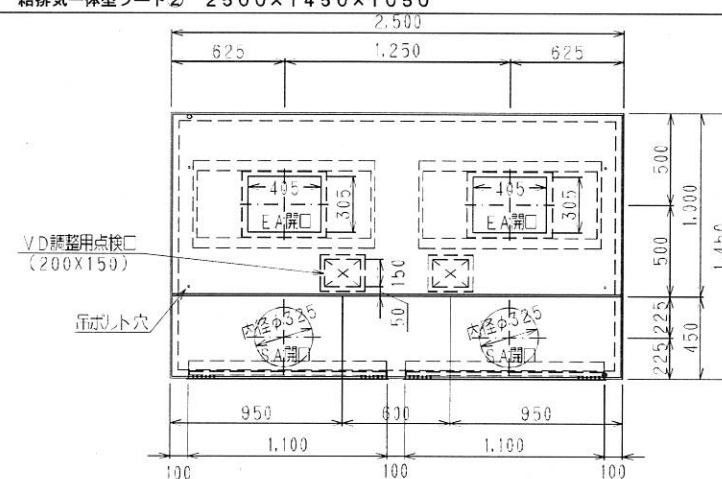
材質仕様内訳書

外装	SUS304 1.0t HL仕上げ
内装	SUS304 1.0t 2B
油抜きドレン15A	X2
吊ボルト穴	12φ X6
ダンパー	HGL-5040 X1
グラスフィルター	LL-302 X1
前面吹出口	VHF
台数	1台

EA処理风量	3400 CMH
SA処理风量	2180 CMH
前面吹出面 有効開口面積 (有効開口率=80%で算出)	0.312 m ²
吹出面風速 (平均計算値)	1.94 m/s



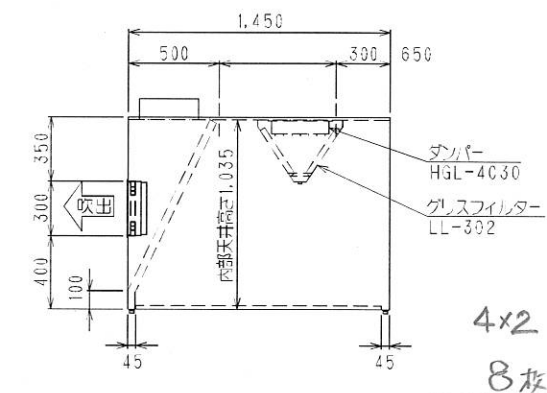
給排気一体型フード② 2500×1450×1050



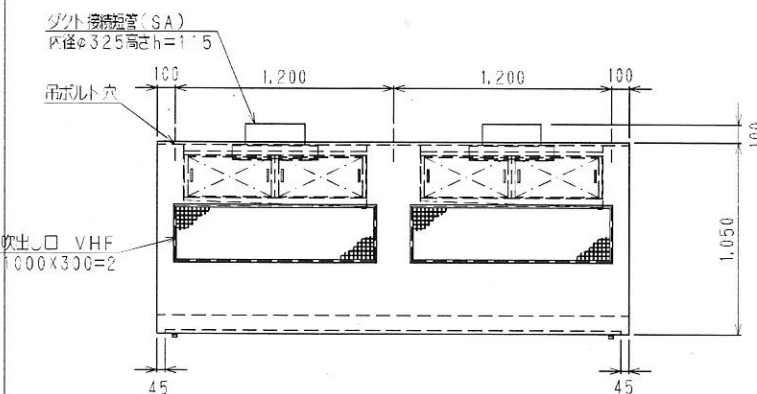
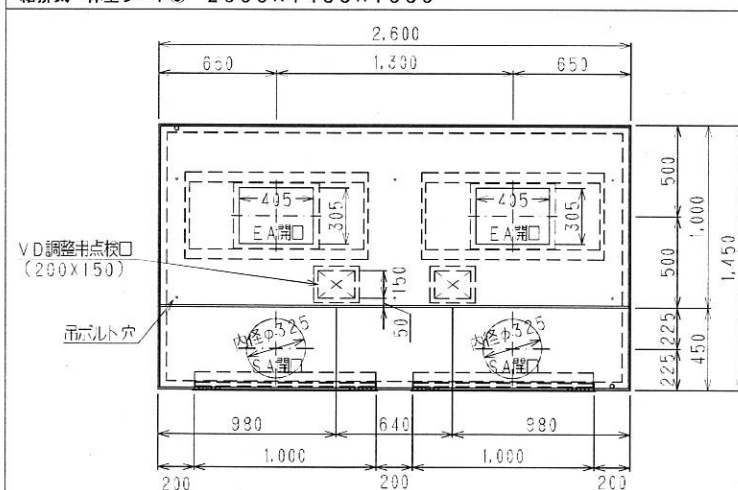
材質仕様内訳書

外装	SUS304 1.0t HL仕上げ
内装	SUS304 1.0t 2B
油抜きドレン15A	X2
吊ボルト穴	12φ X4
ダンパー	HGL-4030 X2
グラスフィルター	LL-302 X2
前面吹出口	VHF
台数	1台

EA処理风量	4400 CMH
SA処理风量	3420 CMH
前面吹出面 有効開口面積 (有効開口率=80%で算出)	0.495 m ²
吹出面風速 (平均計算値)	1.92 m/s



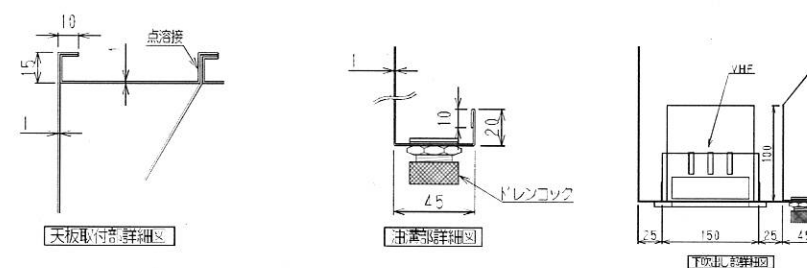
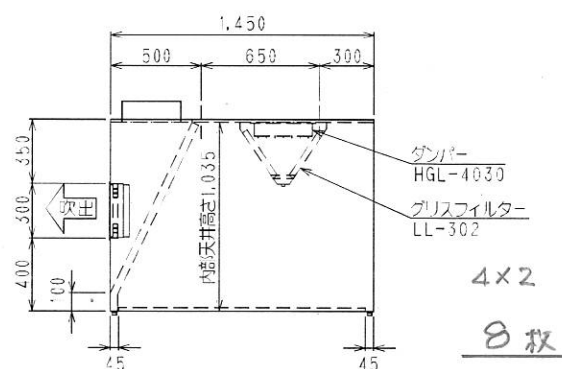
給排気一体型フード③ 2600×1450×1050

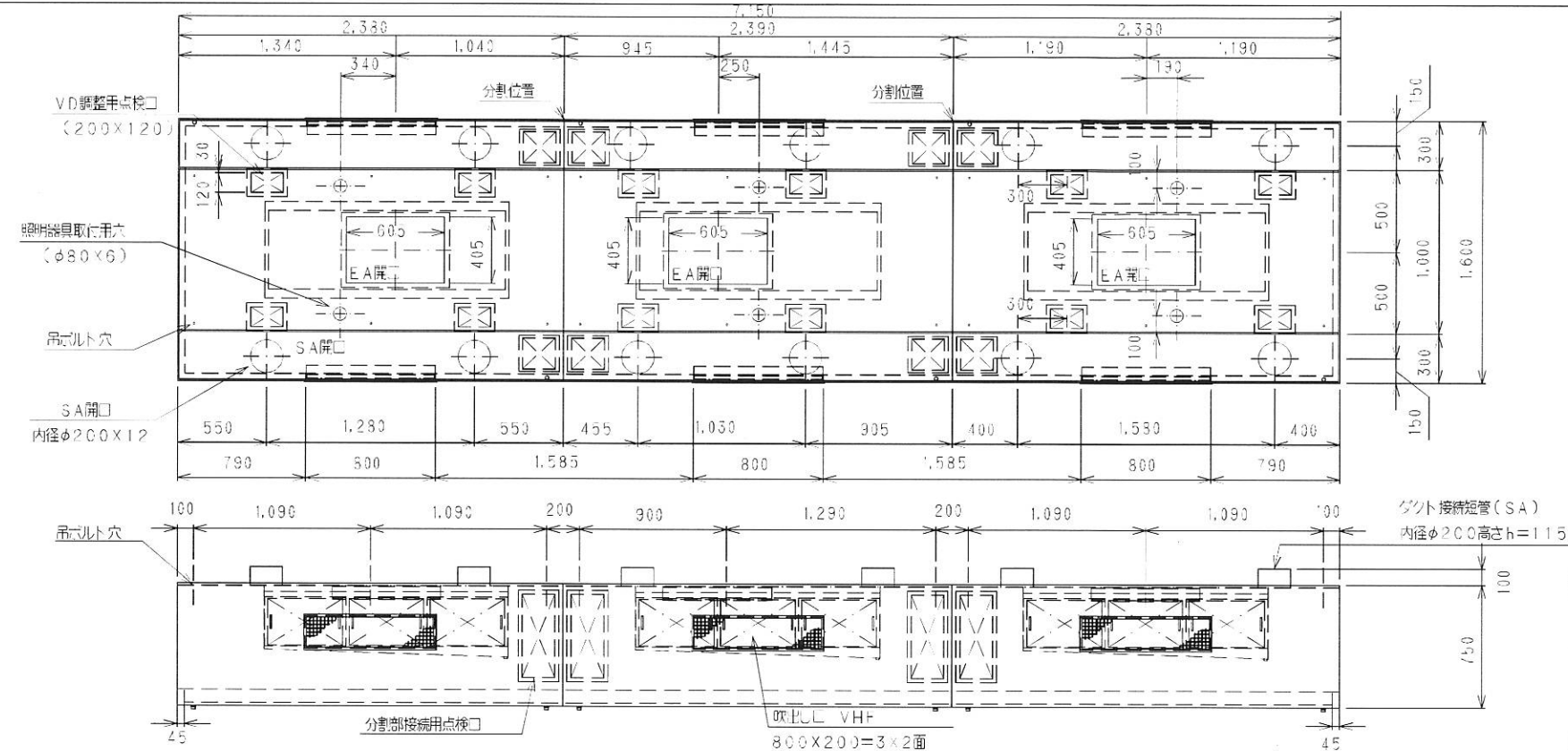


材質仕様内訳書

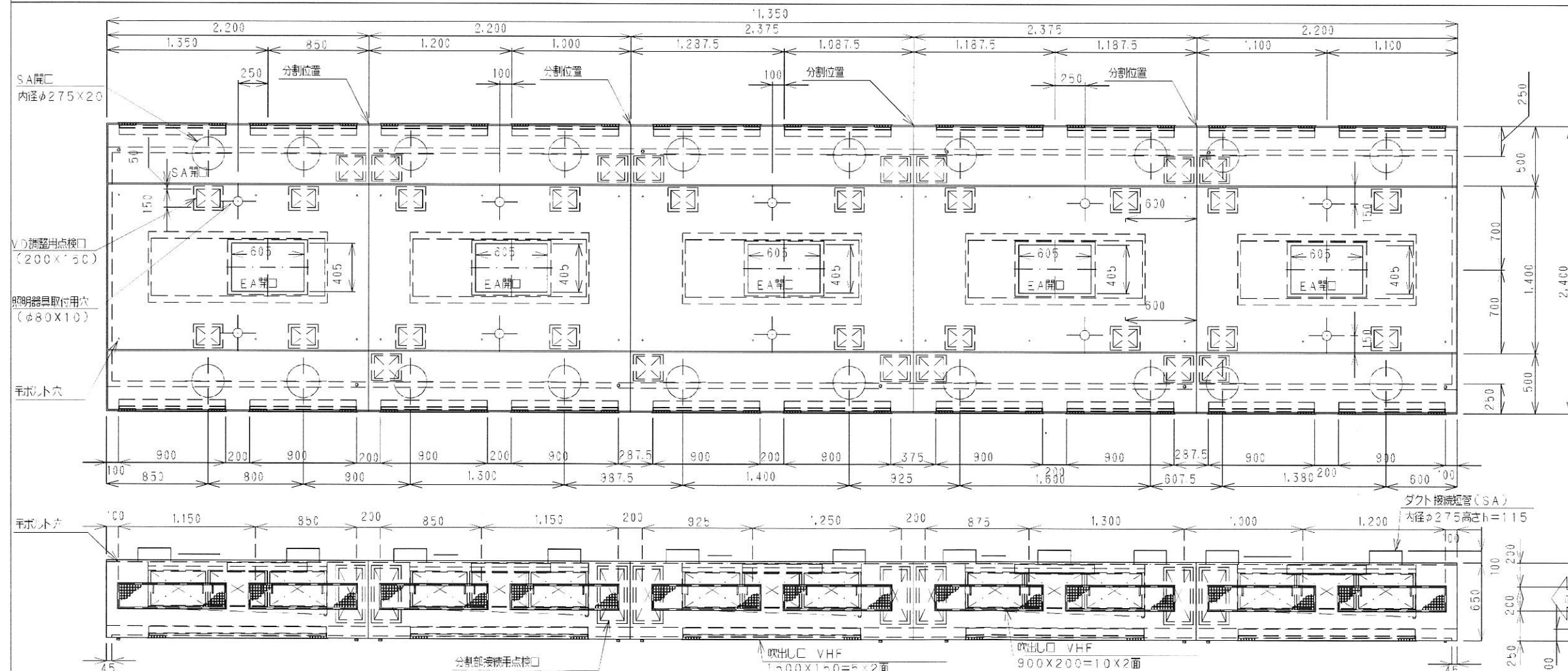
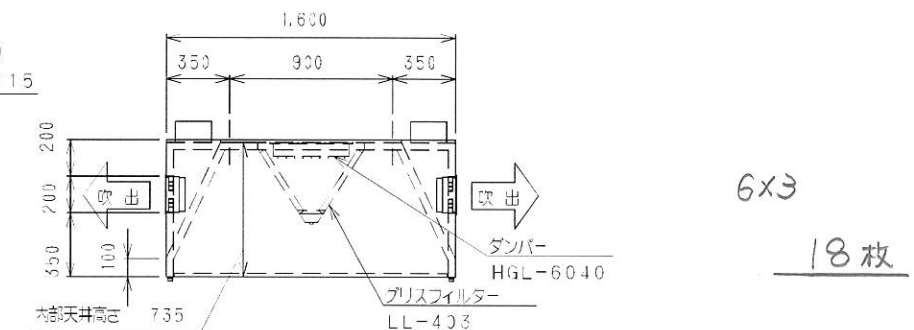
外装	SUS304 1.0t HL仕上げ
内装	SUS304 1.0t 2B
油抜きドレン15A	X2
吊ボルト穴	12φ X6
ダンパー	HGL-4030 X2
グラスフィルター	LL-302 X2
前面吹出口	VHF
台数	1台

EA処理风量	4190 CMH
SA処理风量	2960 CMH
前面吹出面 有効開口面積 (有効開口率=80%で算出)	0.449 m ²
吹出面風速 (平均計算値)	1.83 m/s



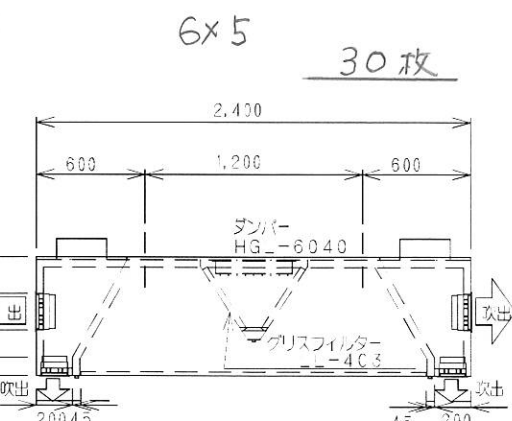


三A処理流量	12360 GPH	外 装	SUS304 1.0t HL仕上ず
SA処理流量	4680 GPH	内 装	SUS304 1.0t 2B
前面吹出面 有効開口面積 (有効開口率=80%で算出)	0.687 m ²	建設トレン154	X6
吹き風速 (平均計算値)	1.87 m/s	吊上げボルトφ	12φ X18
		タンクパー	HGL-6040 X3
		プラスチックター	L-40S X3
		前面吹き口	VHF
		分割数	3分割
		台 数	1 台

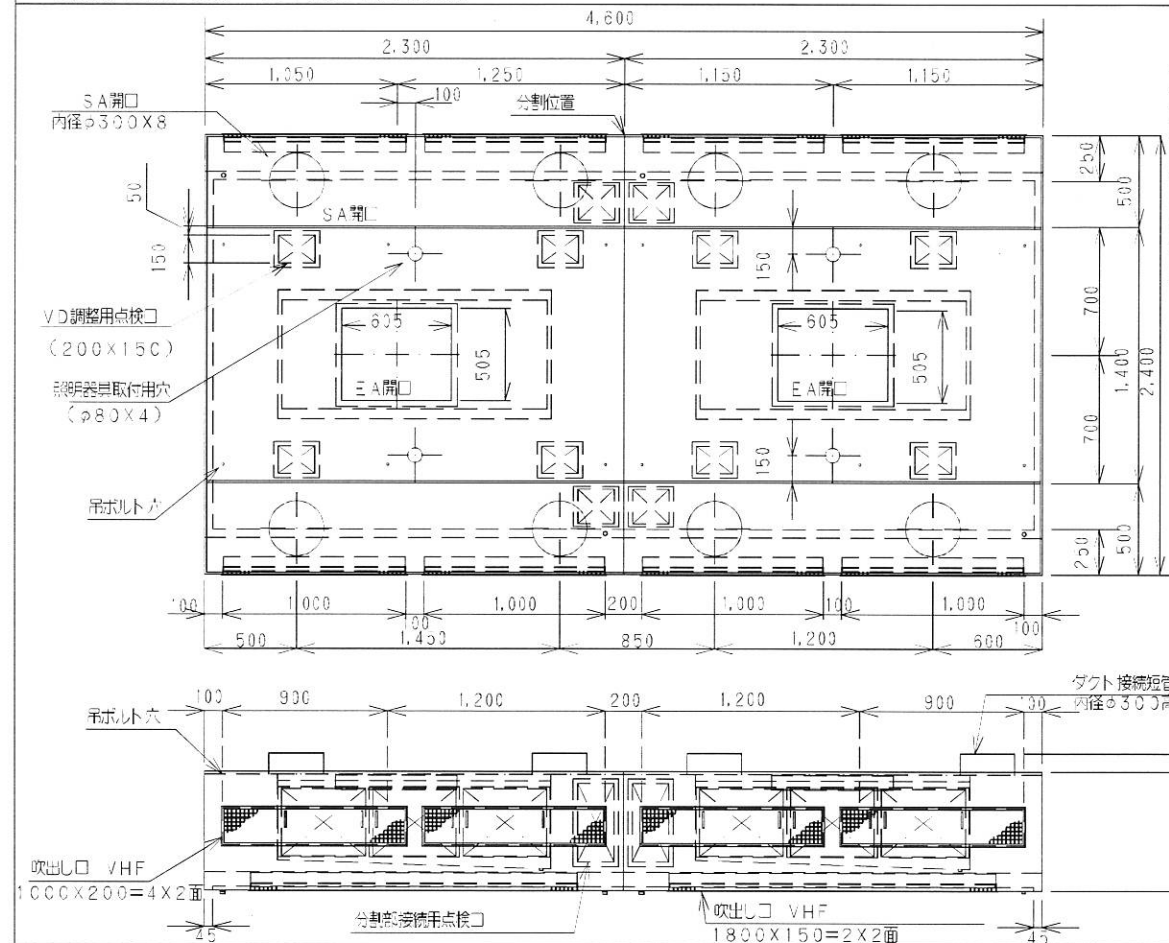


外	装	SLS304 1.0φ HL仕上げ
内	装	SLS304 1.0φ 2B
油圧シリンダ		15A X10
正込ネジボルト穴		12φ X28
ダンパー		HGL-6040 X5
クリスマスフィルター		LL-403 X5
下面吹き出し口		VH-
前面吹き出し口		VH-
分	割	数 5 分割
		1 台

E A 処理流量	23700 CMH
SA 処理流量	24590 CMH
下流の土面 有効開口面積 (有効開口率=80%で算出)	1.603 m ²
断流の土面 有効開口面積 (有効開口率=80%で算出)	2.620 m ²
総吹土面 有効開口面積	4.223 m ²
吹出面流速 (平均計算値)	1.62 m/s



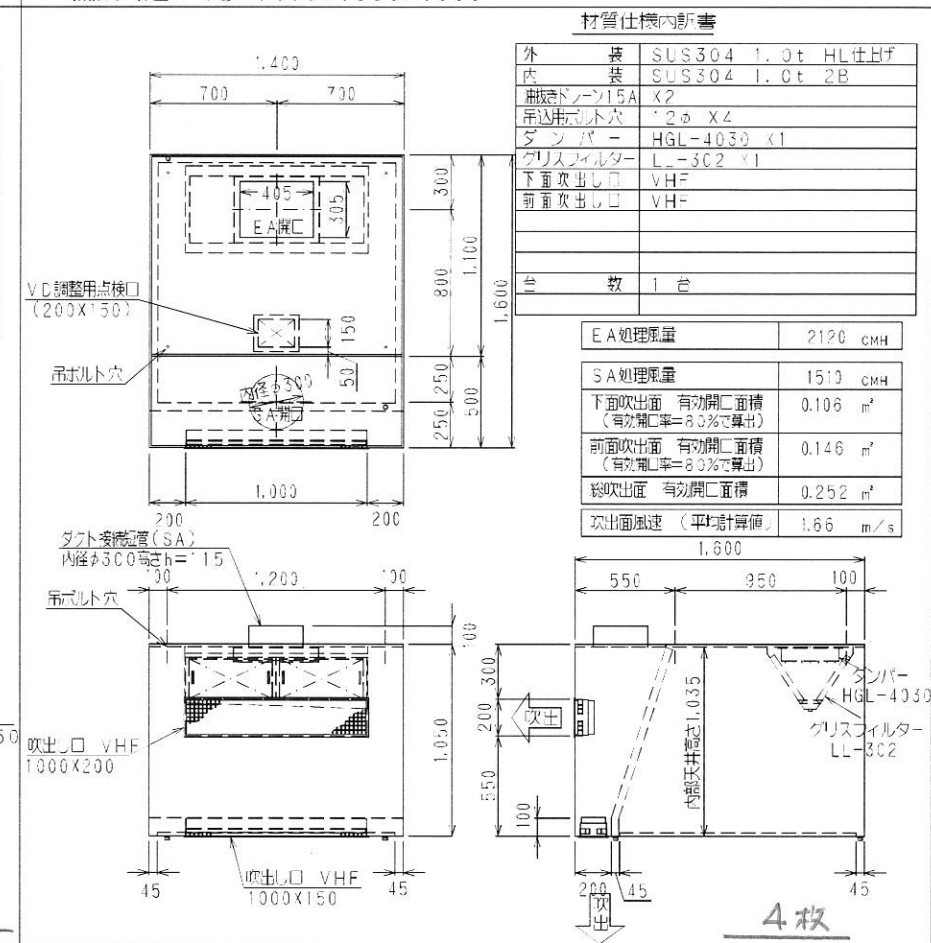
給排気一体型フード⑥ 4600×2400×650



材質仕様内訳書

外装	SUS304 1.0t HL仕上
内装	SUS304 1.0t 2B
排気ダクト	15A X4
吊りボルト穴	12φ X12
ダンパー	HGL-6050 X2
ガラスフィルター	LL-503 X2
下面吹出し口	VHF
前面吹出し口	VHF
分割数	2分割
台数	1台

給排気一体型フード⑦ 1400×1600×1050



材質仕様内訳書

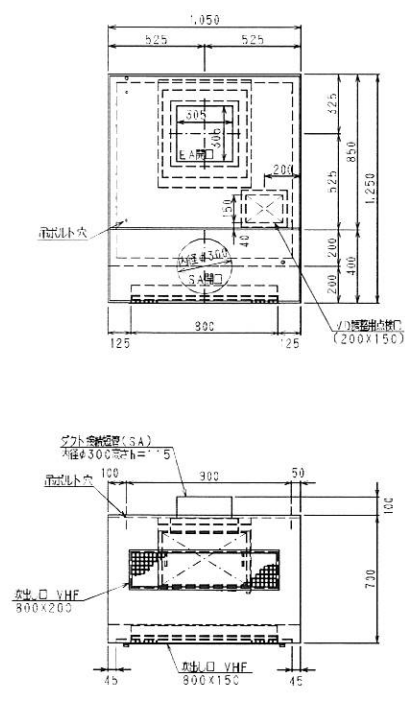
外装	SUS304 1.0t HL仕上
内装	SUS304 1.0t 2B
排気ダクト	15A X2
吊りボルト穴	12φ X4
ダンパー	HGL-4030 X1
ガラスフィルター	LL-302 X1
下面吹出し口	VHF
前面吹出し口	VHF
分割数	1分割
台数	1台

給排気一体型フード⑧ 1050×1250×700

材質仕様内訳書

外装	SUS304 1.0t HL仕上
内装	SUS304 1.0t 2B
排気ダクト	15A X2
吊りボルト穴	12φ X4
ダンパー	HGL-3030 X1
ガラスフィルター	LL-40 X1
下面吹出し口	VHF
前面吹出し口	VHF
分割数	1分割
台数	1台

EA処理風量	1200 CMH
SA処理風量	1200 CMH
下面吹出面 有効開口面積 (有効開口率=80%で算出)	0.085 m ²
前面吹出面 有効開口面積 (有効開口率=80%で算出)	0.16 m ²
総吹出面 有効開口面積	0.231 m ²
吹出面風速 (平均計算値)	1.66 m/s

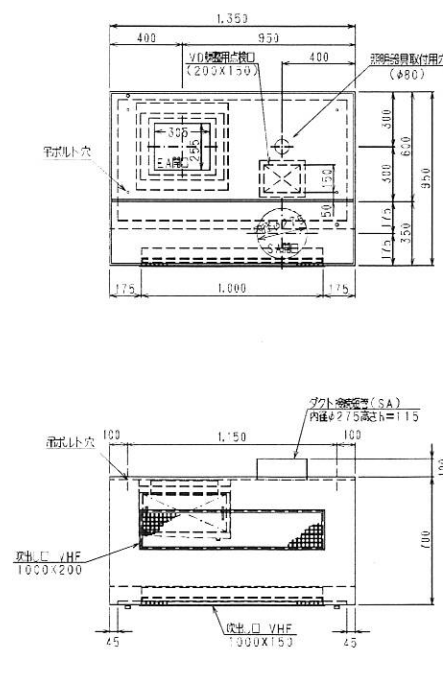


給排気一体型フード⑨ 1350×950×700

材質仕様内訳書

外装	SUS304 1.0t HL仕上
内装	SUS304 1.0t 2B
排気ダクト	15A X2
吊りボルト穴	12φ X4
ダンパー	HGL-3025 X1
ガラスフィルター	LL-30 X1
下面吹出し口	VHF
前面吹出し口	VHF
分割数	1分割
台数	1台

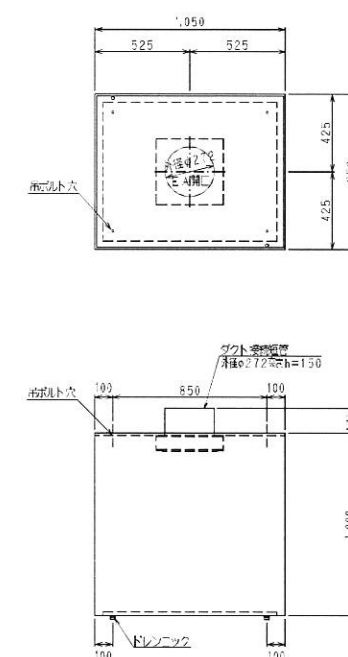
EA処理風量	1100 CMH
SA処理風量	1100 CMH
下面吹出面 有効開口面積 (有効開口率=80%で算出)	0.106 m ²
前面吹出面 有効開口面積 (有効開口率=80%で算出)	0.146 m ²
総吹出面 有効開口面積	0.252 m ²
吹出面風速 (平均計算値)	1.2 m/s



材質仕様内訳書

外装	SUS304 1.0t HL仕上
内装	SUS304 1.0t 2B
排気ダクト	15A X2
吊りボルト穴	12φ X4
ダンパー	HGL-3030 X1
ガラスフィルター	LL-40 X1
下面吹出し口	VHF
前面吹出し口	VHF
分割数	1分割
台数	1台

ボックス型フード⑩ 1050×850×1000



2枚

2枚

学校給食センター調理場入室時の服装について

葛城市学校給食センター

各業者におかれては、給食調理場に入室する際は、以下の規定を厳守してください。

1. センター内は、清潔な衛生環境を維持しているため各部屋の入室には細心の注意を払うよう心掛けてください。特に上処理室については、エアカーテンを通り、髪の毛や埃を取り払うこと。
2. 各部屋への入り口にある設置済みの手洗い器具を使い、石鹸洗浄・手洗い・アルコール消毒を行うこと
3. 建物管理業務を行う業者にあつては、事前に業務内容ごとに作業日及び作業時間帯などを施設管理責任者と協議し、該当設備や機器等についての承認を得た上で、入室すること

【建物業務内容】

- 床・ガラス清掃
 - 設備・機器等修繕業務
 - 電気・空調・給排水設備保守
 - エレベータ・リフト保守
 - 消火設備保守
 - 通信施設保守
 - 空気環境測定（煤煙測定・騒音測定・水質検査等）
 - 上下水道施設保守
 - 害虫防除及び駆除（害虫・ねずみの駆除、白蟻防除、鳥害防除）
4. 害虫防除及び駆除業務に関しては、特に薬剤の使用やトラップの設置を行うことから、その施工箇所について、委託先の業務責任者又は副責任者の立会のうえ実施すること

（参考）

学校給食法（昭和二十九年法律第百六十号）第九条第一項の規定に基づき、学校給食衛生管理基準を定める

第4 衛生管理体制に係る衛生管理基準

1 衛生管理体制に係る衛生管理基準は、次の各号に掲げる項目ごとに、次のとおりとする。

（1）衛生管理体制

十一 調理に直接関係のない者を調理室に入れないこと。調理及び点検に従事しない者が、やむを得ず、調理室内に立ち入る場合には、食品及び器具等には触れせず、（3）三に規定する学校給食従事者の健康状態等を点検し、その状態を記録すること。また、専用の清潔な調理衣、マスク、帽子及び履物を着用させること。

さらに、調理作業後の調理室等は施錠するなど適切な管理を行うこと。

標準の服装



キャップは、頭髮や耳が隠れるようなものを使用する。

マスクを着用すること

業者であることがわかるよう**名札**を着用すること。
着衣は、上下清潔なものを使用すること。

土や埃のついていない清潔な履物を使用すること。
履物全体をカバーするものも可とする。

その他、つなぎ服として

チャック式、フード・靴カバー付き、非防水、抗菌、帯電防止加工を施した見学者用のウェアも可とする。